熊取町埋蔵文化財調査報告第11集

熊取町遺跡群発掘調査概要報告書・Ⅲ

１９８９年　３月

熊取町教育委員会

はしがき

現在熊取町には、周知の遺跡が34箇所あります。この数字が物語るように、私たちの祖先はこの肥沃な土地を基盤として営々と土地を開墾し、産業をおこし、また文化を築き上げながら地域を発展させてきました。

しかし近年の高度経済成長に伴い、宅地開発等が盛んに行われ、都市化が進み、歴史を正しく理解していく上で欠くことのできない埋蔵文化財にあってはこの影響を強く受け、多くの遺跡・遺構が破壊の恐れに直面しているといえます。

このような状況のなか、本町教育委員会では、開発申請者等のご理解、ご協力を得て、発掘調査或は工事計画地での立会、試掘調査等を実施し、国民の共有財産である埋蔵文化財の実態の把握と保存に努めています。

本書は、これらの事業の中で、昭和63年度中に国庫補助を受けて実施した調査成果を概要報告書としてまとめ、発刊したものであります。ごくささやかではありますが、周辺地域史研究の為の資料となり、わずかでも文化財保護啓蒙に寄与できますればと念願するものであります。

最後に現地での調査及び本書の作成にあたってご尽力、ご教示をいただきました方々、並びに関係各位に対し感謝の意を表します。

平成元年3月

熊取町教育委員会

教育長　山中長正

例　　言

1. 本書は熊取町教育委員会が昭和63年度国庫補助事業（国補助率50％、府補助率25％、町負担率25％）として計画し、町史編さん室が担当、実施した熊取町遺跡群の調査概要報告書である。

2. 調査は、熊取町教育委員会発掘調査嘱託員井田匡を担当者として昭和63年４月１日に着手し、平成元年３月31日終了した。

　なお、調査における事務及び連絡等については、町史編さん室室長日原進、事務吏員谷口美恵子がおこなった。

3. 調査の実施と整理にあたっては、岩根幹一、久世公一、井手口大作、池辺吉也、岡崎喜一、義本哲司、腕野登志、富村伊都子、覚野和代、辻本栄子、安福佳代、大門由香里、安田律子、菅野幸子、岸田治美の諸氏の協力を受けた。

　また、関係各位より多大な協力を得た。明記して感謝の意を表したい。

4. 本書中の標高は、東京湾平均海水面を基準とし、方位は、地図以外は磁北を示すものとした。

5. 本書の執筆及び編集は、井田がおこなった。

6. 調査にあたっては、写真・実測図等の記録を作成するとともにカラースライドを作成した。広く利用されることを望む。

7. 調査を実施する際に遺構については、検出した順に遺構の略称と番号を組み合わせて呼称することとした。略称は溝をＳＤ、柱穴をＰｉｔ、土壙をＳＫ、その他の遺構をＳＸと呼称したが、本書中でもこれに準じてＳＤ－１、ＳＫ－１と呼称することとする。

目　　次

第 1 章　昭和63年度の状況 …… 1

第 2 章　東円寺跡の調査 …… 9

第 1 節　昭和63年度の調査について …… 9

第 2 節　東円寺跡88年－7区の調査 …… 9

① 位置と地理的環境

② 調査の概要

③ 検出遺構

④ 出土遺物

⑤ 小　　結

第 3 節　東円寺跡88年－8区の調査 …… 13

① 位置と地理的環境

② 調査の結果

③ 小　　結

第 4 節　東円寺跡88年－9区の調査 …… 16

① 位置と地理的環境

② 調査の概要

第 3 章　その他の遺跡の調査 …… 17

第 1 節　口無池遺跡88年－1区について …… 17

第 2 節　降井家屋敷跡88年－1区について …… 17

第 4 章　ま と め …… 18

図 版 目 次

図版第一　東円寺跡88年－7区全景

図版第二　東円寺跡88年－7区遺構検出状態

図版第三　東円寺跡88年－8区遺構検出状態

図版第四　出土遺物

図版第五　昭和63年度の調査　遺構Ⅰ

図版第六　昭和63年度の調査　遺構Ⅱ
図版第七　昭和63年度の調査　遺構Ⅱ
図版第八　昭和63年度の調査　遺物Ⅰ
図版第九　昭和63年度の調査　遺物Ⅱ
図版第十　昭和63年度の調査　遺物Ⅲ

挿図目次

第1図　熊取町の位置 …… 1
第2図　東円寺跡調査地位置図 …… 7・8
第3図　東円寺跡88年－7区調査区設定図 …… 9
第4図　東円寺跡88年－7区調査区平面図 …… 10
第5図　東円寺跡88年－7区出土遺物 …… 11
第6図　東円寺跡88年－8区調査区設定図 …… 13
第7図　東円寺跡88年－8区出土遺物 …… 13
第8図　東円寺跡88年－8区平面図及び土層図 …… 14
第9図　東円寺跡88年－7・8・9区出土遺物 …… 15
第10図　東円寺跡88年－9区調査区設定図 …… 16
第11図　熊取町遺跡分布図Ⅰ …… 19•20
第12図　遺跡分布図Ⅱ …… 21•22
第13図　遺跡分布図Ⅲ …… 23
第14図　遺跡分布図Ⅳ …… 24
第15図　遺跡分布図Ⅴ …… 25

表目次

第1表　昭和63年度発掘届（第57条第1項の2に基づく届出）一覧 …… 2•3•4
第2表　昭和63年度発掘通知（第57条第1項の3に基づく通知）一覧 …… 4
第3表　昭和63年度試掘依頼一覧 …… 5
第4表　熊取町遺跡群周知の遺跡一覧 …… 26•27

熊取町遺跡群発掘調査概要報告書・Ⅲ

第１章　昭和63年度の状況

熊取町域での開発行為は、年々増加の傾向にある。これらを反映するように本年度の文化財保護法第５７条の２、３に基づく発掘届及び発掘通知は、５７件にも及び、５遺跡について１３件の発掘調査を実施した。立会及び、遺跡の存否確認のための試掘調査は３０件にも及んだ。

文化財保護法第５７条の２に基づく、民間の開発によるものは、店舗の建築や宅地の造成や住宅の建築が大半を占めており、文化財保護法第５７条の３に基づく、公共事業によるものは、区画整理事業・下水管埋設道路の新設工事などのほか道路内でのガス管の敷設工事、下水道・上水道の工事が増加している。道路内への埋管工事などについては、主に開削時に立会を実施しているが、遺構面への影響が多いために重要な遺構が存在する箇所では、遺構面を直接開削せずに工法の変更などによって遺構の損傷を極力防止するように指導している。今後は道路を新設する段階で、全面調査を実施し、遺構の存在状態や遺物出土の状況を把握することが必要と思われる。

さらに、熊取町では５００㎡を越える開発行為に対しては周知の遺跡の範囲外に対しても、事前に試掘調査を実施して埋蔵文化財の存在の有無を確認するよう指導しており、開発者より本年度は２０件の試掘調査依頼が熊取町教育委員会に提出されている。

本年度の発掘届・発掘通知に基づく調査の結果は表－１、表－２にまとめたので参照願いたい。また、試掘依頼に基づく調査は表－３にまとめたので併せて参照願いたい。

第１図　熊取町の位置

第１表　昭和６３年度発掘届（５７条の２第１項）一覧

東　円　寺　跡（２５件）

番号	申請地番	申請者	申請事由	申請面積	備考
1	野田2133．2134	泉州興産株式会社	宅地造成	948．9㎡	調査　調査報告第７集参照
2	野田2314	藤原一貫	駐車場造成	595．0㎡	調査　調査報告第７集参照
3	野田（大阪外環状線）	大阪ガス株式会社	ガス管埋設	83．6㎡	慎重工事
4	野田2198－3	本林幹朗	個人住宅	102．4㎡	調査　本書掲載
5	五門1133－1,3 1034－3	阪上建治	給油所建築	1,388．3㎡	調査　調査報告第８集参照
6	野田1194	泉州興産株式会社	下水管埋設	31．1㎡	立会　遺構・遺物なし
7	野田2326－5　2327－1	近畿配管株式会社	事務所建築	509．7㎡	調査　調査報告第９集参照
8	大久保2080　4他	南海リース興業株式会社	店舗建築	1,224．0㎡	試掘　遺構・遺物なし
9	野田1095　2175	大阪ガス株式会社	ガス管埋設	202．7㎡	慎重工事
10	野田2328　2244	大阪ガス株式会社	ガス管埋設	118．0㎡	慎重工事
11	野田2432－1他	藤原政一	店舗建築	780．0㎡	試掘　遺構・遺物なし
12	野田2327－1	大阪ガス株式会社	ガス管埋設	6．0㎡	慎重工事
13	野田2133－1	（まとり泉州興産株式会社	宅地造成	485．3㎡	調査　調査報告第７集参照
14	野田2390	藤原末広	個人住宅	410．6㎡	調査　本書掲載
15	野田（大阪外環状線）	大阪ガス株式会社	ガス管埋設	1,575．0㎡	慎重工事
16	野田2136－1．3	北川徳子	擁壁工事	1,036．0㎡	調査　本書掲載
17	野田2321－2	大阪ガス株式会社	ガス管埋設	3．7㎡	慎重工事
18	五門1139他２筆	谷和開発株式会社	宅地造成	787．7㎡	試掘　遺構・遺物なし
19	五門1153－5	高松建設株式会社	宅地造成	330．6㎡	試掘　遺構・遺物なし
20	野田2198－5	小畑茂夫	個人住宅	132．2㎡	調査　本書掲載
21	野田2198　4	織田実	個人住宅	198．3㎡	調査　本書掲載
22	野田2198－1	中岡英俊	個人住宅	128．8㎡	調査　本書掲載
23	野田2133	関西電力株式会社	電柱敷設	6．0㎡	現在協議中
24	五門1153－3，4	高松建設株式会社	住宅建築	226．2㎡	試掘　遺構・遺物なし
25	野田2298	関西電力株式会社	電柱敷設	7．5㎡	現在協議中

大久保B遺跡　（5件）

番号	申請地番	申請者	申請事由	申請面積	備考
26	大久保 425－1他	大阪ガス株式会社	ガス管埋設	232．0 ㎡	立会　遺構・遺物なし
27	大久保地内	大阪ガス株式会社	ガス管埋設	40．1 ㎡	立会　遺構・遺物なし
28	大久保50	大阪ガス株式会社	ガス管埋設	5．0 ㎡	慎重工事
29	大久保 425－1他	大阪ガス株式会社	ガス管埋設	184．2 ㎡	慎重工事
30	大久保372	大阪ガス株式会社	ガス管埋設	53．0 ㎡	慎重工事

久保城跡　（2件）

番号	申請地番	申請者	申請事由	申請面積	備考
31	久保1602，1603	中嶋由	大学寮建築	974．0 ㎡	中止
32	久保1602，1603	花枝康宏	住宅建築	999．9 ㎡	試掘　遺構・遺物なし

大浦中世墓地　（2件）

番号	申請地番	申請者	申請事由	申請面積	備考
33	久保 705－1他5筆	株式会社　大松	合宿所建築	974．0 ㎡	試掘　遺構なし
34	小垣内1560－1	岡本利雄	宅地造成	330．3 ㎡	立会　遺構・遺物なし

五門北古墳　（2件）

番号	申請地番	申請者	申請事由	申請面積	備考
35	野田1880－4	中川嘉助	個人住宅	281．5 ㎡	立会　遺構・遺物なし
36	五門 448－1他3筆	株式会社　みどりの館	擁壁工事	856．7 ㎡	現在協議中

山の下城跡　（1件）

番号	申請地番	申請者	申請事由	申請面積	備考
37	野田1146	フジ住宅株式会社	学生寮建設	991．7 ㎡	試掘　遺構・遺物なし

正法寺跡　（1件）

番号	申請地番	申請者	申請事由	申請面積	備考
38	小垣内 944－1	宮形米治	共同住宅	696．2 ㎡	

小垣内遺跡　（2件）

番号	申請地番	申請者	申請事由	申請面積	備考
39	小垣内（大阪外環状線）	大阪ガス株式会社	ガス管埋設	436．0 ㎡	立会　遺構・遺物なし
40	小垣内（大阪外環状線）	大阪ガス株式会社	ガス管埋設	276．0 ㎡	立会　遺構・遺物なし

降井家屋敷跡　（１件）

番号	申請地番	申請者	申請事由	申請面積	備考
41	大久保19－2	坂上彦春　坂上信彦	個人住宅	351．0 ㎡	調査　近世遺物出土

大久保Ａ遺跡　（１件）

番号	申請地番	申請者	申請事由	申請面積	備考
42	大久保1726－1	坂上楠雄	共同住宅	705．0 ㎡	試掘　遺構・遺物なし

紺屋遺跡　（１件）

番号	申請地番	申請者	申請事由	申請面積	備考
43	大久保54　124	大阪ガス株式会社	ガス管埋設	229．3 ㎡	立会　遺構・遺物なし

大久保Ｃ遺跡　（１件）

番号	申請地番	申請者	申請事由	申請面積	備考
45	大久保44－3	泉州ハウジング㈱	共同住宅	229．3 ㎡	試掘　遺構・遺物確認

口無池遺跡　（１件）

番号	申請地番	申請者	申請事由	申請面積	備考
46	紺屋 117－1	阪上兼三	個人住宅	639．4 ㎡	調査　本書掲載

大久保Ｄ遺跡　（２件）

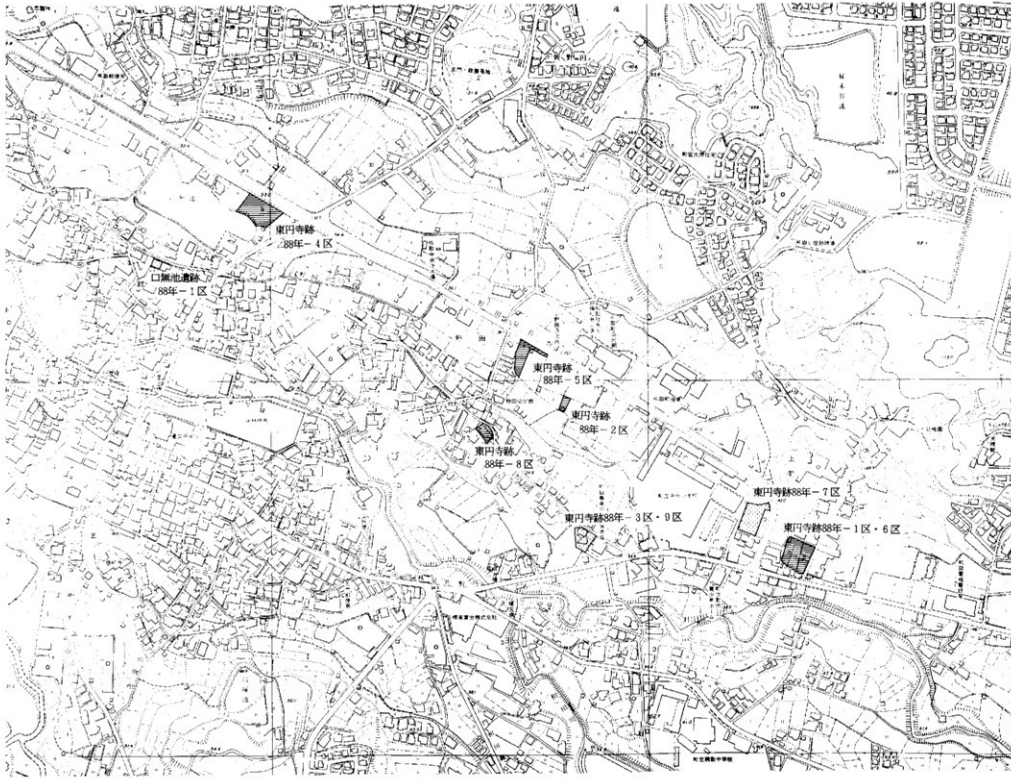
番号	申請地番	申請者	申請事由	申請面積	備考
47	大久保 323他４筆	小西恵子	共同住宅	997．2 ㎡	調査　調査報告第10集参照
48	大久保 150	大阪ガス株式会社	ガス管埋設	175．7 ㎡	立会　遺構・遺物なし

第２表　昭和６３年度発掘通知（５７条の３第１項）一覧

遺跡名	申請地番	申請者	申請事由	申請面積	備考
大久保Ｂ遺跡	大久保 425－1他33筆	熊取町長　下中　融	区画整理事業	11,731.95㎡	調査　調査報告作成中
降井家屋敷跡	大久保1835－1．2	熊取町長　下中　融	地下埋設物	16.5 ㎡	立会　遺構・遺物なし
東円寺跡	小垣内１－１	大阪府水道企業管理者	水道管埋設	2,037 ㎡	慎重工事
小垣内遺跡	国道 170号	大阪府水道企業管理者	水道管埋設	2,067 ㎡	慎重工事
坊主池	大久保1835－1．2	熊取町長　下中　融	池堤改修	5.6 ㍍	立会　遺構・遺物なし
奥の池	久保2873－2	大阪府泉州耕地事務所	池堤改修	0.9 ㍍	立会　遺構・遺物なし
七山濁池	七山 598－1．2	熊取町長　下中　融	池堤改修	1.6 ㍍	立会　遺構・遺物なし
柿谷池	七山1529－1．2	熊取町長　下中　融	池堤改修	0.9 ㍍	立会　遺構・遺物なし
清水上池	小谷 308－1．2	熊取町長　下中　融	池堤改修	0.44 ㍍	立会　遺構・遺物なし

第３表　　昭和６３年度試掘依頼一覧

番号	申請地番	申請者	申請事由	申請面積	備考
1	大久保 562－4	源　重治	ﾏﾝｼｮﾝ建築	506．7㎡	立会　遺構・遺物なし
2	七山1902他32筆	七山病院　本多　浄	病院増築	22,660㎡	試掘　遺構・遺物なし
3	野田 786	三陽ハウス株式会社	住宅建築	900．0㎡	試掘　遺構・遺物なし
4	野田2066－8，9	山本英達	個人住宅	701．8㎡	試掘　遺構・遺物なし
5	久保1451他5筆	森　栄三	大学寮建築	998．5㎡	試掘　遺構・遺物なし
6	久保1114－1	橘織物株式会社	大学寮建築	913．0㎡	
7	野田 644.1173 他2筆	田中幸作	造成工事	930．3㎡	試掘　遺構・遺物なし
8	野田 907－1．904－4	大屋正信	ﾏﾝｼｮﾝ建築	675．1㎡	立会　遺構・遺物なし
9	大久保77	大阪府岸和田土木事務所	道路改良工事	700．0㎡	立会　遺構・遺物なし
10	大久保1209	尾崎助松	大学寮建築	816．0㎡	試掘　遺構・遺物なし
11	久保 447．481	北本善男	大学寮建築	573．0㎡	試掘　遺構・遺物なし
12	大久保1208－2	阪上富蔵	大学寮建築	801．1㎡	試掘　遺構・遺物なし
13	久保4070－1	株式会社　谷和開発	ﾏﾝｼｮﾝ建築	3,637．3㎡	試掘　遺構・遺物なし
14	久保1038他4筆	熊取町長　下中　融	道路新設工事	1,140．0㎡	試掘　遺物なし
15	野田 907--1．904－4	大屋隆信	共同住宅建築	829．0㎡	試掘　遺構・遺物なし
16	五門 803	田中吉一	大学寮建築	666．0㎡	試掘　遺構・遺物なし
17	久保 947－1他3筆	泉州ホーム株式会社	造成工事	998．9㎡	試掘　遺構・遺物なし


東円寺跡
88年－4区
口無池遺跡
88年－1区
東円寺跡
88年－5区
東円寺跡
88年－2区
東円寺跡
88年－8区
東円寺跡88年－7区
東円寺跡88年－3区・9区
東円寺跡88年－1区・6区

第2図　調査地位置図

第２章　東円寺跡の調査

第１節　本年度の調査について

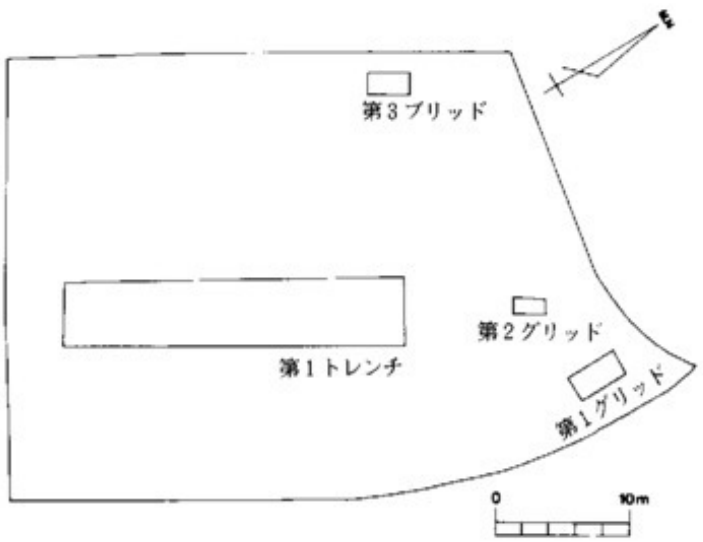
東円寺跡では本年度９件の発掘調査を実施したが、それぞれの調査区について調査を実施した順に、西暦の下２桁を組み合わせて８８年－１区・２区と呼称することとした。調査区は民間の開発に起因するものが、東円寺跡８８年－１区・２区・４区・５区・６区で、個人の住宅建築などに伴う発掘調査が、東円寺跡８８年－３区・７区・８区・９区である。

本書では東円寺跡８８年－３・７・８・９区の調査結果を掲載しているが、民間の開発行為に伴う発掘調査については、既に個々の調査の調査概要報告書が発刊されているので併せて参照願いたい。

第２節　東円寺跡８８年－７区の調査

①　位置と地理的環境

東円寺跡８８－７区は小字名ではたらりに当たる地点である。調査地の周囲の地形は北側は丘陵への裾野で南に位置する大井出川・住吉川に向かって、その標高を徐々に下げている河岸の段丘面にあたる。



第３図　東円寺跡８８年－７区調査区設定図

②　調査の概要

調査は調査申請地内に１本のトレンチと３ヵ所のグリッドを設定して実施したが、トレンチ内で遺物及び遺構を確認したので遺跡の性格を追及するために拡張して実施することにした。拡張した調査区内では、中央に５ｍ毎に杭をう

ち調査地区の地区割りを実施した。南北方向はアラビア数字による地区名で呼称し、１・２・３・４と表し、東西方向　は東側をＥ区とし西側をＷ区と呼称する事とする。本書中でも遺構の位置等の表し方は、これに準じてＷ１、Ｅ２と表す事とする。また、今回の調査地での南北の基準線は東へ３７°ふっている。なお、この調査区の周辺に３ヵ所設定したグリッドからは遺構及び遺物は確認できなかった。

③　検出遺構

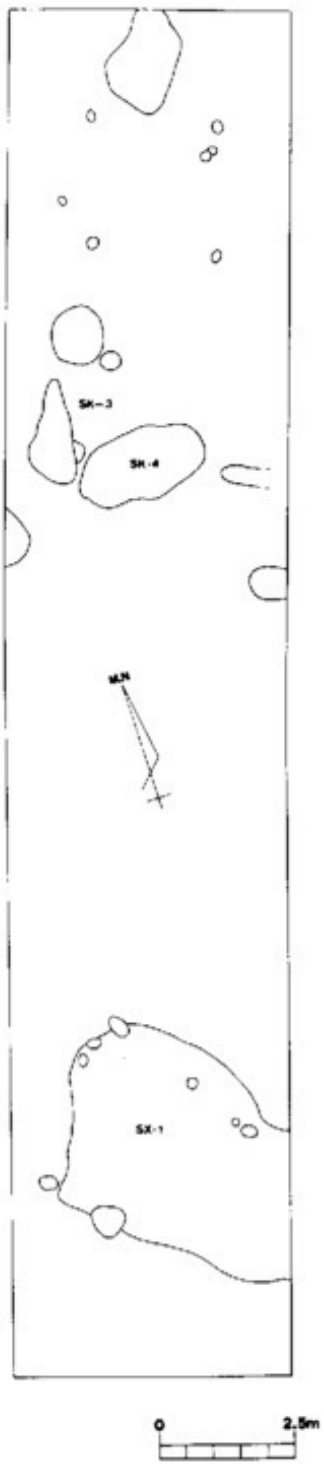
調査地では厚さ約２０cmの耕土層を除去すると、厚さ１０cmにもみたない整地層を検出し、この整地層を除去すると遺構が検出できた。遺構はすべて地山に削られたものであった。近世遺物が極端に少ないことから近世以降に削平を受けているものと思われる。以下検出遺構について述べる。

ＳＫ－１

ＳＫ－１は調査区ＷＥ１で検出された土壙で、長軸は２．４ｍを測り、短軸は１ｍを測る。深さは約５０cmを測る。埋土は黄褐色粘質土である。遺物は瓦質の甕の破片が数点出土している。

ＳＫ－２

ＳＫ－２は調査区Ｗ２で検出された柱穴で、長軸は８０cmを測り、短軸７０cmを測る、深さは約３０cmを測る。埋土は黄褐色粘質土である。遺物は出土していない。



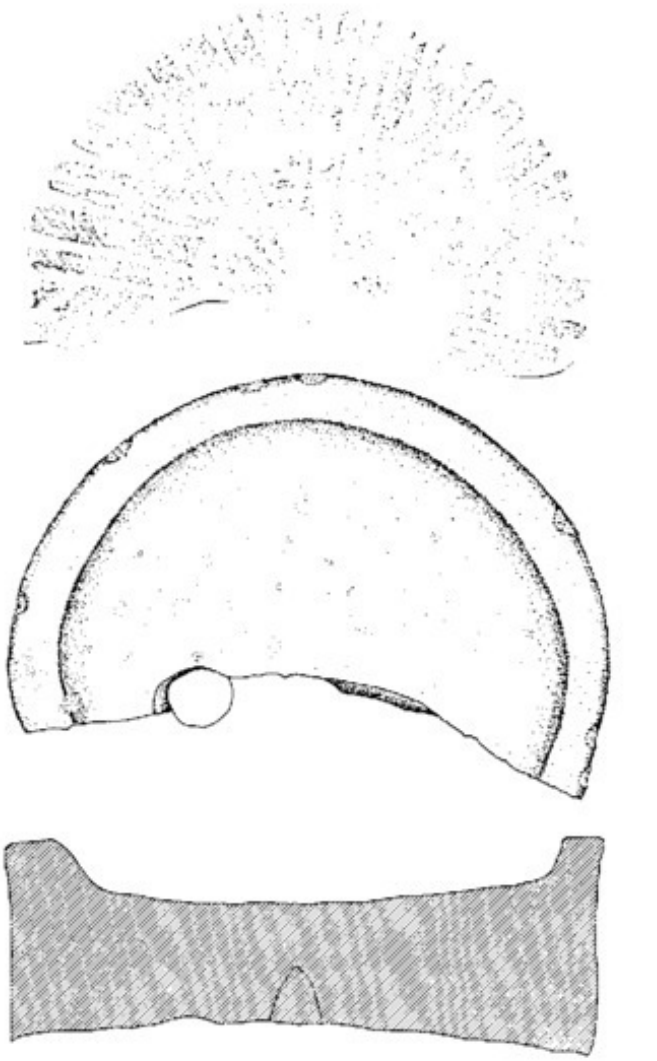
第４図　東円寺跡８８年－７区調査区平面図

ＳＫ－３

ＳＫ－３は調査区Ｗ２で検出された柱穴で、長軸は１．６ｍを測り、短軸７０㎝を測る。深さは約４０㎝を測る。埋土は黄褐色粘質土である。遺物は出土していない。

ＳＫ－４

ＳＫ－４は調査区ＷＥ２で検出された柱穴で、長軸は２ｍを測り、短軸１ｍを測る。深さは約５０㎝を測る。埋土は黄褐色粘質土である。遺物は瓦質の甕の破片と瓦器の破片が少量出土している。



第５図　東円寺跡８８年－７区出土遺物

ＳＸ－１

ＳＸ－１は調査区ＷＥ５で検出された柱穴で、長軸は４．５ｍを測り、短軸３ｍを測る。深さは約３５㎝を測る。埋土は黄褐色粘質土である。遺物は遺構の上面で石臼が出土したほか、瓦質の甕の破片などが出土している。

Ｐｉｔ

柱穴を８基検出しており、径は１８㎝前後を測り、深さは２０㎝前後を測る。遺物は出土していない。

④　出土遺物（第９図１・２・３・４・５・６）

出土遺物はすべて破片で出土したが、その大半は包含層内より出土した。１は瓦質の甕の体部の破片である。外面に多方向への刷毛目が施され、内面にはヘラによる粗い調整がなされている。２も瓦質の甕である外面に刷毛目が施されている。３は瓦質の羽釜の羽根部である。内面に刷毛目と見られる調整がなされており、堅く焼かれている。４は瓦質のこねばちである。内面に刷毛目が見られる。やや軟らかく２次的な焼成をうけている。５はすりばちであるが産地は不明である。６は瓦質のこねばちである。内面に多方向へのナデがみられる。第５図は石臼で時期は不明である。

⑤　小結

当該地では遺物と遺構を確認できた。遺物は主に中世の遺物であるが、遺構に伴った遺物は微量で遺物によって遺構の時期を推定することはできない。しかし地山に直接削られた遺構と耕土以下１０㎝にみたない旧整地層から判断すると遺物の時期である１５世紀以降に削平されたものであると思われる。また旧整地層も掘削をうけているらしく『耕作地の確保』のためにくりかえし削平をおこなったものと思われる。

第３節　東円寺跡８８年－８区の調査

①　位置と地理的環境

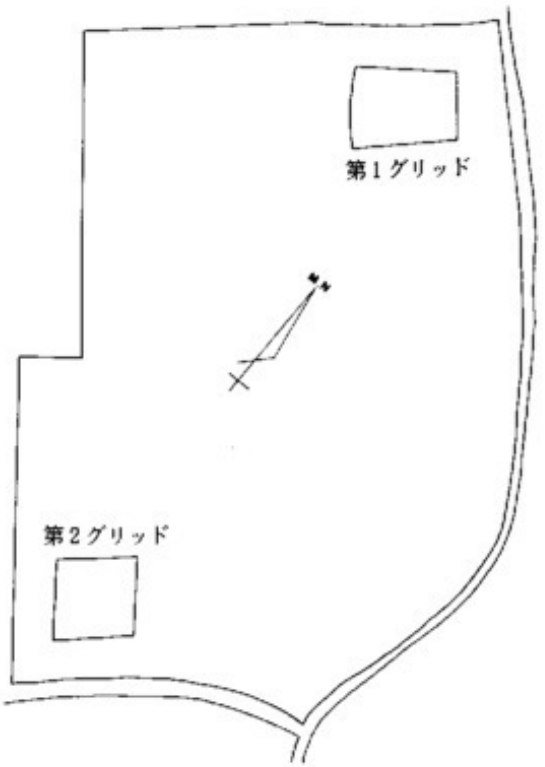
東円寺跡８８－８区は野田区公民館の南側約３０ｍに位置し、周囲の地形は南に位置する住吉川・大井出川にむかってその標高をかなり急にさげている地形で、河岸の低位段丘面にあたる。

②　調査の結果

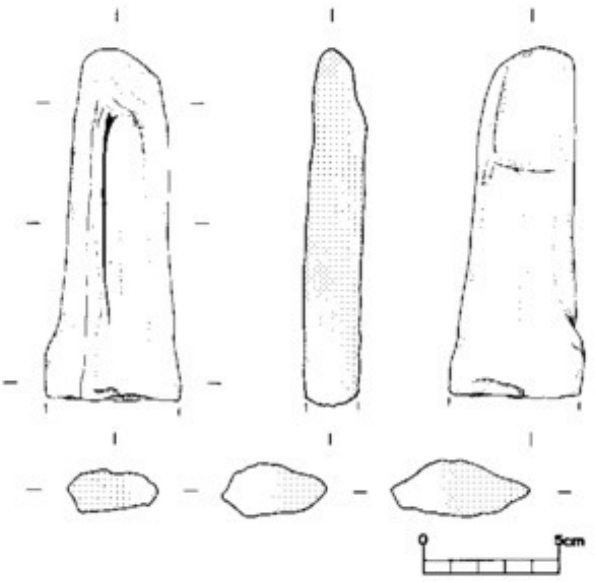
調査は調査申請地内に３ｍ×４ｍの第１グリッドと２．５ｍ×２．５ｍの第２グリッドを設定して実施した。

第１グリッドでは溝を１条と柱穴を１５基検出した。層序は表土が約３０㎝でその下面に３０㎝の淡紫灰色粘砂土が存在し地山に至る。遺構はすべて地山を直接削っている形で検出した。出土遺構としては瓦器・東播系こねばち・瓦質の甕などですべて破片である。

第２グリッドでは溝を１条検出した。層序は表土が約３５㎝で以下暗黄褐色粘質シルト層・黄褐色シルト層・浅灰褐色砂層・明黄橙色シルト層・細砂層（にぶい灰色）・砂層（にぶい暗灰褐色）・灰色粘



第６図　東円寺跡８８年－８区調査区設定図



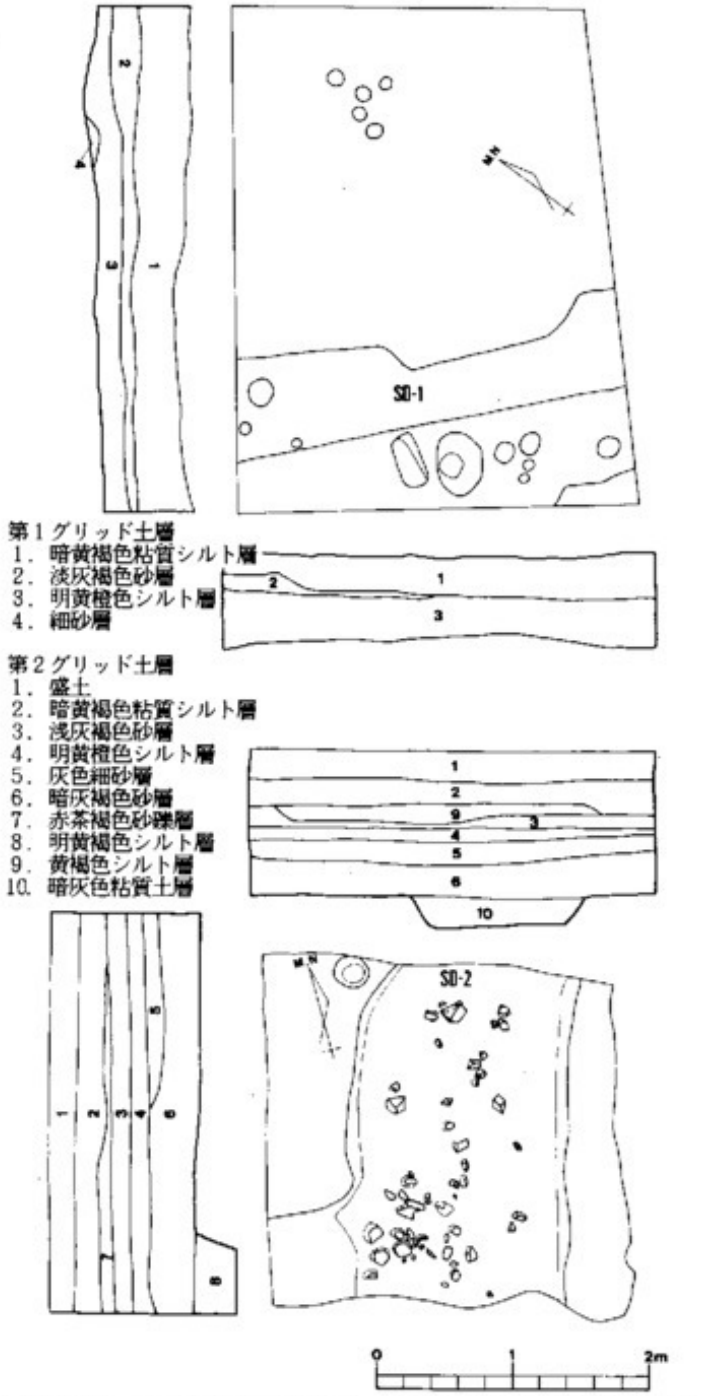
第７図　東円寺跡８８年－８区出土遺物

質土と堆積し地山に至る。

出土遺物として第９図に図示し得たのは５点である。９・１０・１１は須恵器で９は杯で、１０・１１は杯蓋である。

１０は内面にろくろ調整のを施してある。１１は外面にろくろによる調整がみられ、端部は丁寧に調整してある。内面の調整はやや粗雑である。７はＳＤ－１で出土した瓦器小皿で外面は一条の横ナデを施し、底部は指おさえを施す内面にはへらによる暗文が施されている。

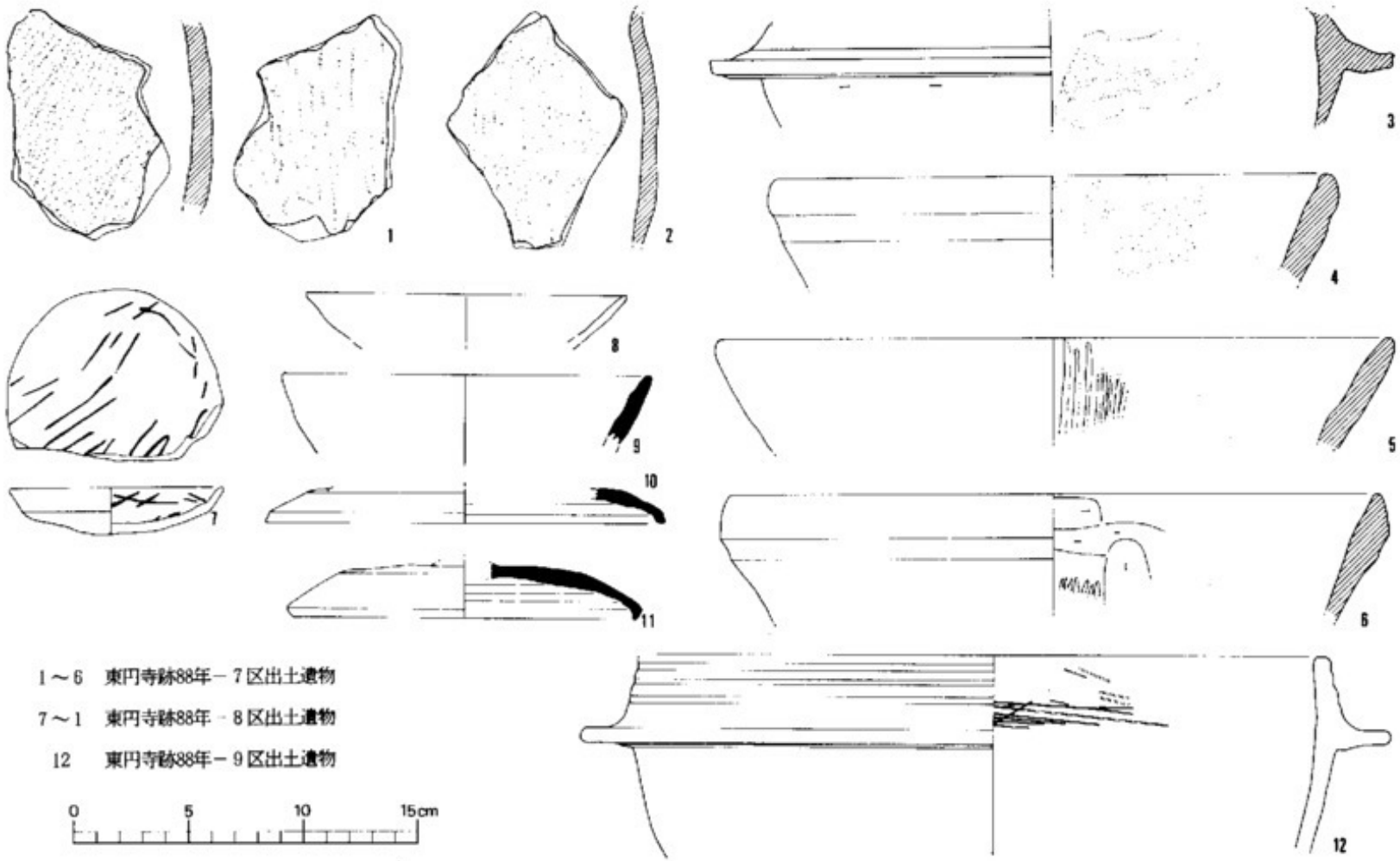
第７図は結晶片岩製の石棒である。端部には加工の痕がみうけられる。この石棒自体が加工されたのか、加工する道具として使用されたのかはわからない。



第８図　東円寺跡８８年－８区平面図及び土層図

③　小結

当該地では奈良時代から近世に至るまでの遺物を確認できた。遺物は主に中世の遺物であるが、奈良時代の遺物として須恵器の杯蓋・杯身を出土している。



第9図　東円寺跡88年－7・8・9区出土遺物

東円寺跡出土の須恵器については、昭和６２年度の調査として実施した東円寺跡８７年－１・２区においても出土しており、今回の調査区がその南側３０ｍの地点に位置していることから、当時の生活範囲である集落が段丘上のみならずさらにその範囲が南側へ広がることも想定できる。また、ＳＤ－１・２は中世の溝と思われるが、灌漑を目的としたのか、土地を区画するために掘削されたのかはわからない。今回の調査によって、住吉川・大井出川側の標高の低い地点にも遺構が存在することが確認できた。今後も継続して調査による資料の蓄積をおこない具体的な歴史像の把握が必要である。

第４節　東円寺跡８８年－９区の調査

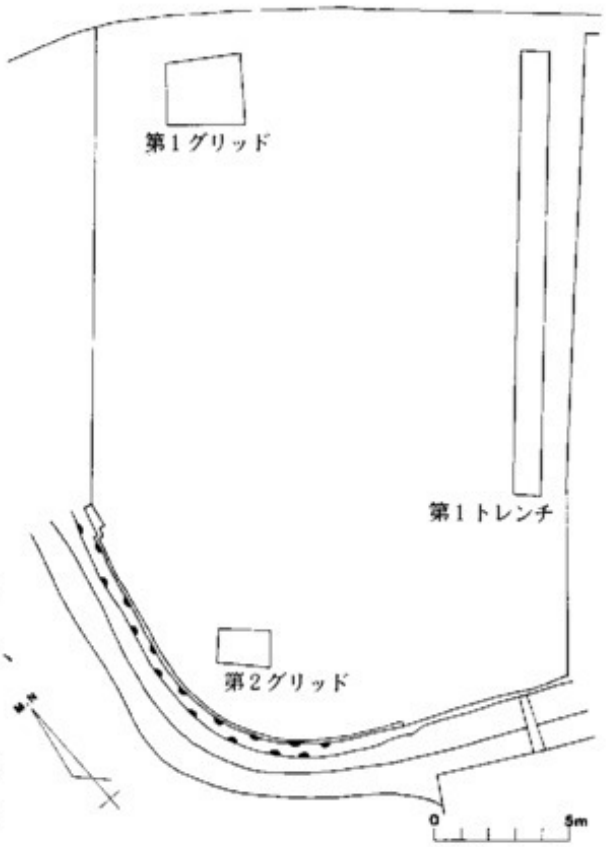
①　位置と地理的環境

東円寺跡８８－９区は小字名では中曽根に当たる地点である。周囲の地形は南に位置する住吉川・大井出川にむかってその標高をかなり急にさげている。

②　調査の概要

調査は調査申請地内に、幅１ｍ、長さ１６ｍのトレンチを１本と２．５ｍ×３ｍの第１グリッドと１．５ｍ×２ｍの第２グリッドを設定して、実施した。

第１トレンチでは溝を１条検出した。層序は表土が約２０㎝でその下面に１０㎝程度の旧整地層が存在し地山に至る。遺構は地山を直接削っている形で検出した。出土遺物としては羽釜の破片などですべて破片である。



第１０図　東円寺跡８８年－９区調査区設定図

第１グリッドでは溝を１条検出した。層序は盛土が約２５cmでその下面に５cmの旧整地層が存在し地山に至る。遺構は地山を直接削っており、出土遺物としては瓦器・東播系こねばち・瓦質の甕などですべて破片である。

第２グリッドでは遺構、遺物は検出できなかった。層序は表土を除去するとすぐに地山を確認した。

出土遺物で図化し得たのは、第９図の１２のみである。１２は羽釜で反転復元口径３１cmを測る。口縁部外面に二条の調整が見られ内面には多方向への刷毛目がみうけられる。

第３章　その他の遺跡の調査

第１節　口無池遺跡８８年－１区について

口無池遺跡は昭和６２年度に実施された道路拡幅工事に伴い、発見された遺跡である。今回の調査では申請地内に１．５ｍ×３ｍのグリッドを２ヵ所設定しておこなった。遺物包含層は確認できたが、遺構は確認できなかった。今後も口無池遺跡では住宅の改築に伴う調査が、実施されるだろうが、狭小な調査区でも調査を積み重ねることによって、資料が蓄積されることと思われる。

第２節　降井家屋敷跡８８年－１区について

降井家屋敷跡８８年－１区は重要文化財降井家書院の東側５０ｍの地点である。調査は幅１．５ｍ長さ３ｍのトレンチを１本設定しておこなった。遺物包含層は確認できたが、遺構は確認できなかった。

第4章　ま　と　め

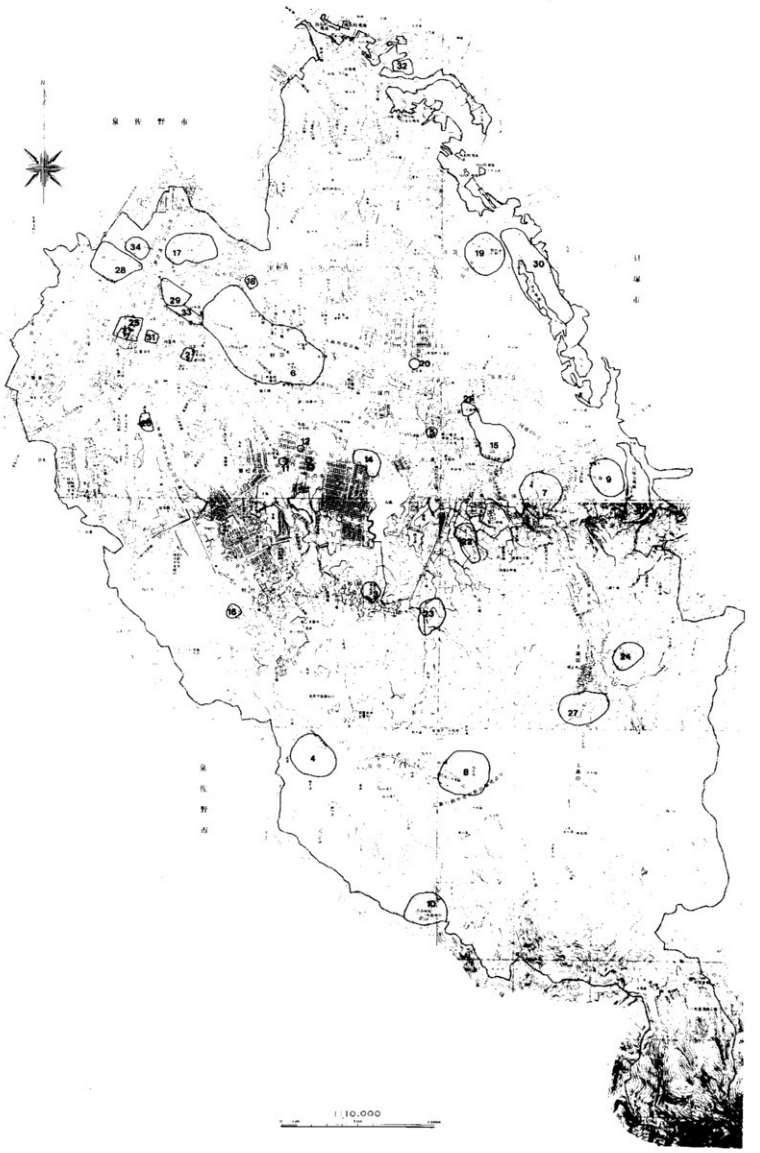
昭和６３年度の調査の概要は前述のとおりであるが、調査区別にまとめると東円寺跡が９ヵ所、降井家屋敷跡、口無池遺跡、大久保Ｂ遺跡、大久保Ｄ遺跡が各１ヵ所の合計１３ヵ所の調査を実施した。以下各遺跡の今年度の状況を簡単にまとめることとする。

東円寺跡においては昭和５７年に大阪府教育委員会によって、国道１７０号線（現在の大阪外環状線）の建設に伴う調査が初めて実施されてから、５年目を迎えた。本年度の調査においてもまた新たな知見が得られた。個人住宅の建築に伴う調査では、東円寺跡の範囲の南半部にあたる旧集落内での住宅の建て替えに伴う調査を実施したが、そのいずれにおいても良好な包含層と遺構を確認している。また、民間の開発に基づいて実施した調査ではほぼ完形品の瓦器埦や瓦器の破片などの中世遺物が出土し、瓦器埦と中世遺物についてのかなり良好な資料を得ることができた。さらに遺跡の範囲が東側に広がる可能性も出てきた。

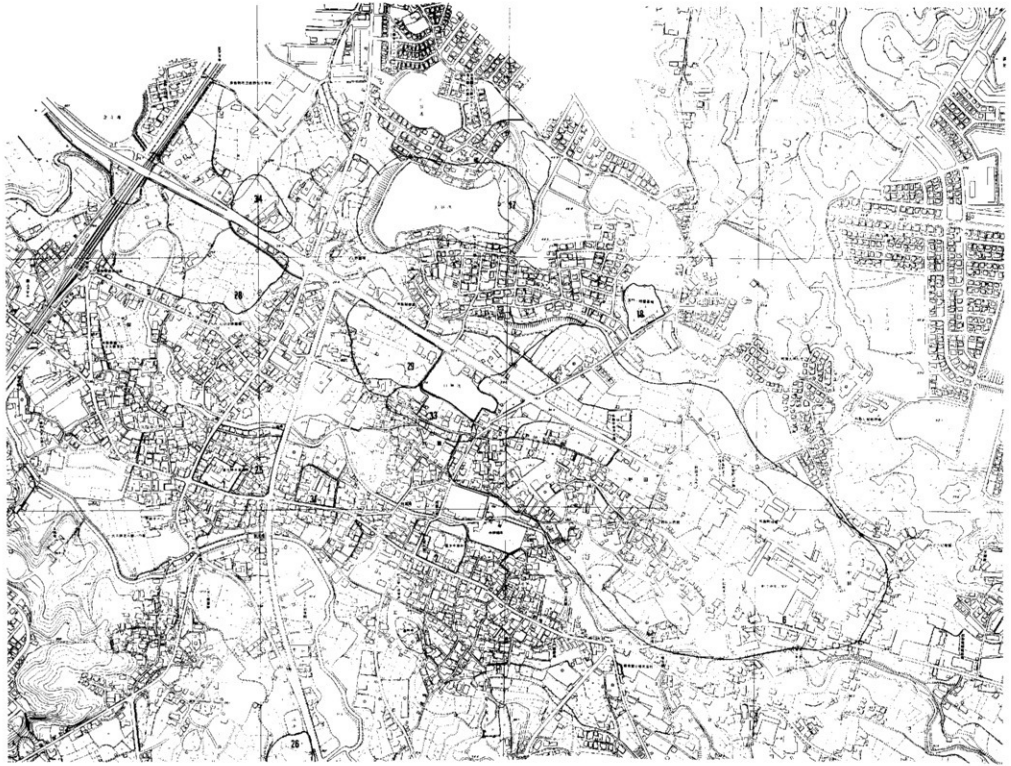
東円寺跡以外の遺跡においても知見が多く得られた。大久保Ｂ遺跡・大久保Ｄ遺跡での調査においては、弥生土器の高杯や壷の破片やサヌカイト製の石鏃・石錐・泥岩製の磨製石斧などが出土しているが、このことから判断すると周辺に弥生時代の集落が存在する可能性の濃さは否めないところである。

熊取町内では今年度も前年を上回る開発行為が実施された。年々発掘届の件数も開発件数の増加に比例して増加しており、本年度の届出件数は前年比の約２割り増しである。これらの状況は間接的にではあるが、開発増加の最も大きな要因である関西新空港が完成後も長く続くものと思われる。今後はこうした状況をふまえて開発行為の増加に伴う発掘件数の増加に対応できる体制が必要であるが、それに加えてひろく一般に文化財を活用できる形で還元していくことが今後の課題であり、それが文化財行政の役割であると考える。

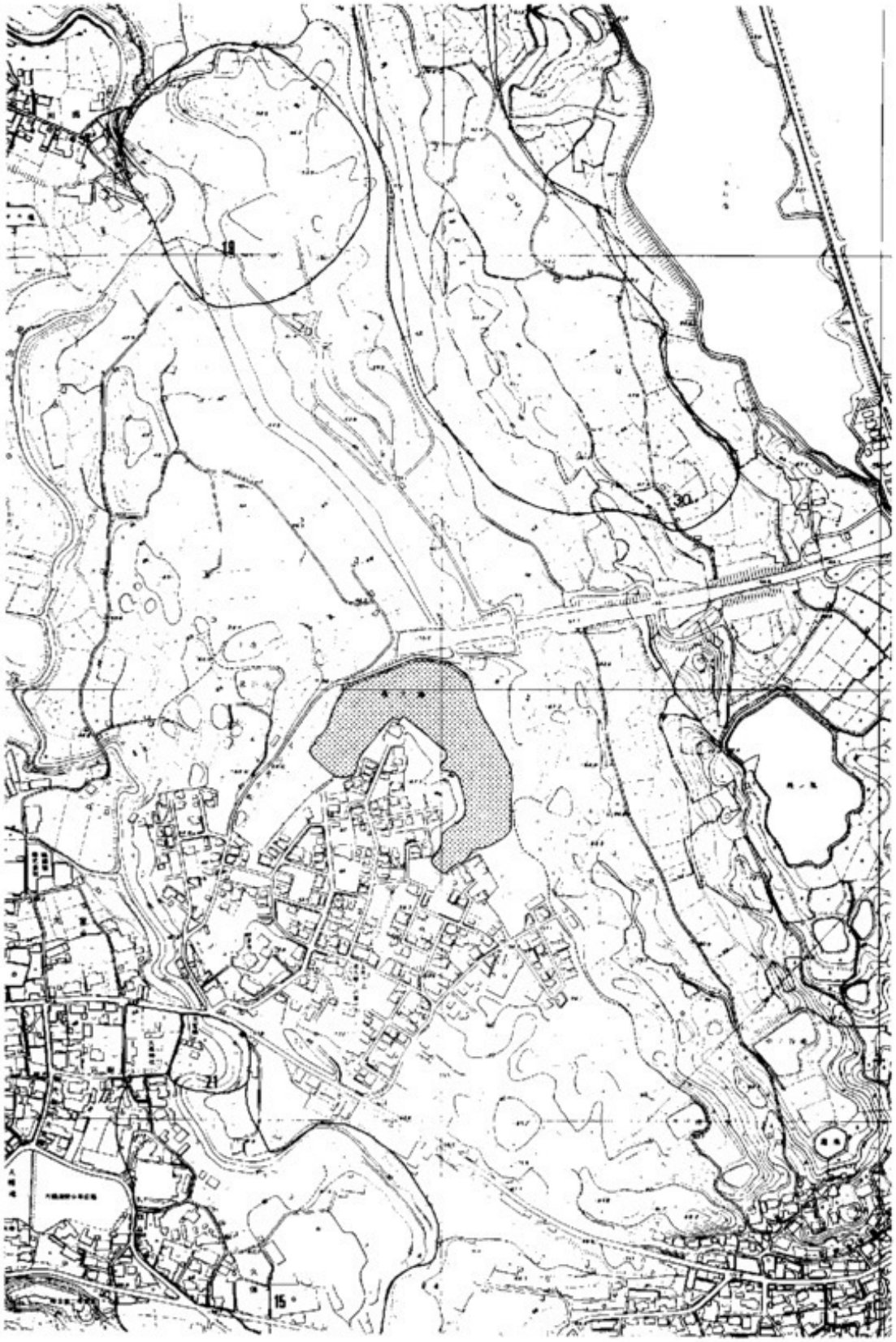
以上昭和６３年度の調査状況および今後の課題についてとりまとめ記したが、最後に上述したとおり、今後も文化財の保存と調査について十二分な配慮が早急に必要であることを関係各位にお願いしておわりとしたい。



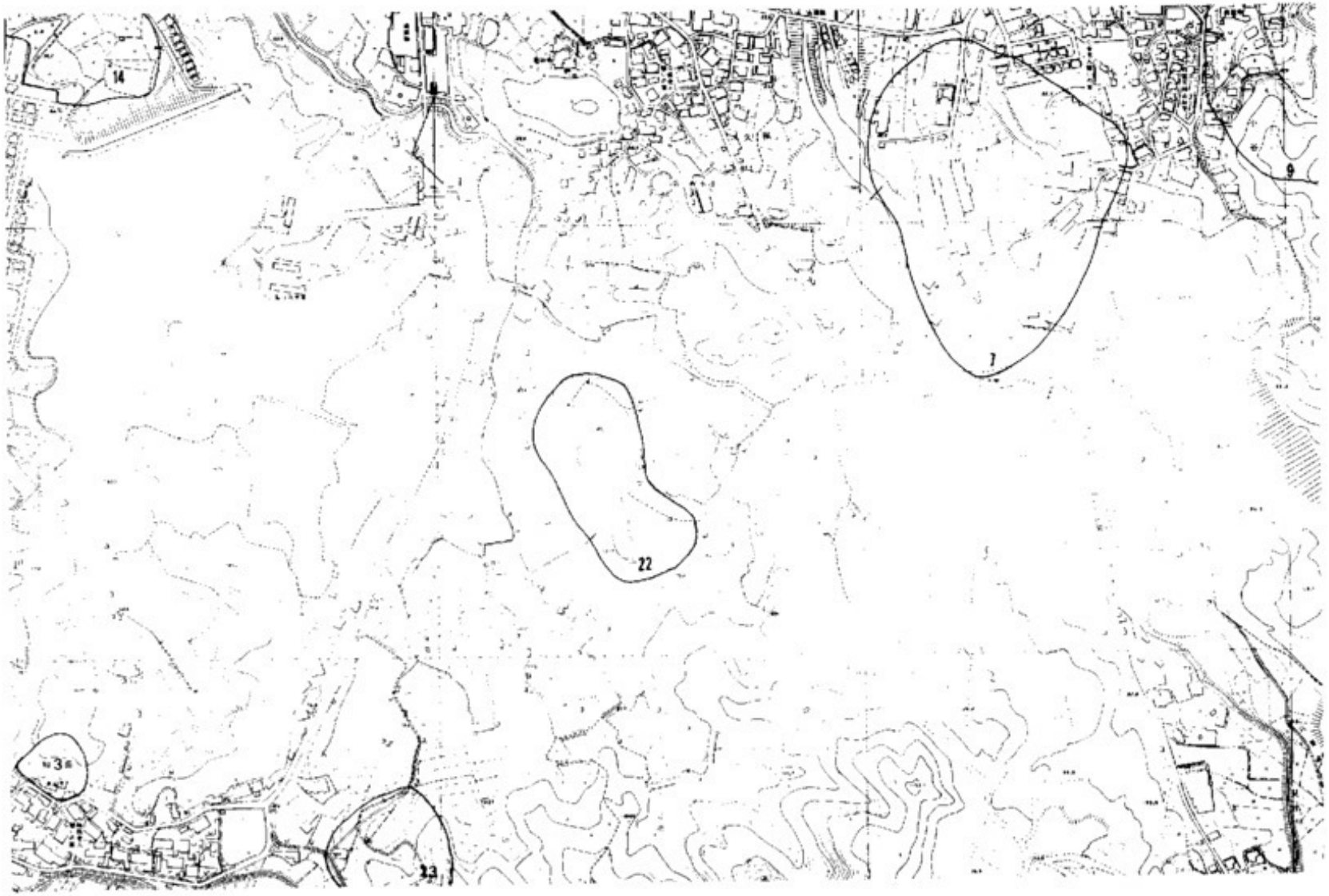
第１１図　熊取町遺跡分布図Ⅰ



第１２図　遺跡分布図Ⅱ



第１３図　遺跡分布図Ⅲ



第１４図　遺跡分布図Ⅳ

第１５図　遺跡分布図Ⅴ

第4表　熊取町遺跡群　周知の遺跡一覧表

No.	遺跡名	種類	時代	その他
1	降井家書院	書院跡	室町～江戸時代	国指定　重要文化財
2	中家住宅	屋敷跡	室町～江戸時代	国指定　重要文化財
3	来迎寺本堂	寺院	鎌倉時代	国指定　重要文化財
4	池ノ谷遺跡	旧石器散布地	旧石器時代	
5	甲田家住宅	民家	江戸時代	
6	東円寺跡	寺院跡	弥生～江戸時代	平安末期の創建
7	城ノ下遺跡	城郭跡	室町時代	
8	成合寺遺跡	墓地	室町時代	
9	高蔵寺城跡	城郭跡	室町時代	高倉寺城ともいう
10	雨山城跡	城郭跡	鎌倉時代	
11	五門遺跡	散布地	古墳～江戸時代	
12	五門北古墳	古墳参考地	古墳時代	
13	五門古墳	古墳参考地	古墳時代	
14	大浦中世墓地	墓地	室町時代	
15	久保城跡	城郭跡	鎌倉時代	
16	山ノ下城跡	城郭参考地	鎌倉時代	
17	大谷池遺跡	散布地	古墳～江戸時代	
18	祭礼御旅所跡	祭礼跡	室町時代	
19	正法寺跡	寺院跡	鎌倉時代	
20	小垣内遺跡	寺院跡	江戸時代	小垣内毘沙門堂跡
21	金剛法寺跡	寺院跡	室町時代	
22	鳥羽殿城跡	城郭跡	室町時代	
23	墓ノ谷遺跡	寺院跡	室町時代	
24	花成寺跡	寺院跡	室町時代	華成寺ともいわれる
25	降井家屋敷跡	屋敷跡	室町～江戸時代	
26	大久保A遺跡	散布地	江戸時代	

No.	遺跡名	種類	時代	その他
27	下高田遺跡	条里跡	鎌倉時代	
28	大久保B遺跡	集落跡	弥生～江戸時代	
29	紺屋遺跡	散布地	古墳～江戸時代	
30	白地谷遺跡	散布地	室町～江戸時代	
31	大久保C遺跡	散布地	室町～江戸時代	
32	千石堀城跡	城郭跡	室町時代	
33	口無池遺跡	散布地	平安～江戸時代	
34	大久保D遺跡	散布地	鎌倉～江戸時代	

※この一覧表は昭和61年4月1日大阪府教育委員会発行の文化財分布図に従って作成されています。

※昭和61年4月以降の周知の遺跡の加増及び範囲の拡大は文化庁長官宛の遺跡発見届に基づいています。

※この一覧表は昭和63年3月31日現在のものです。

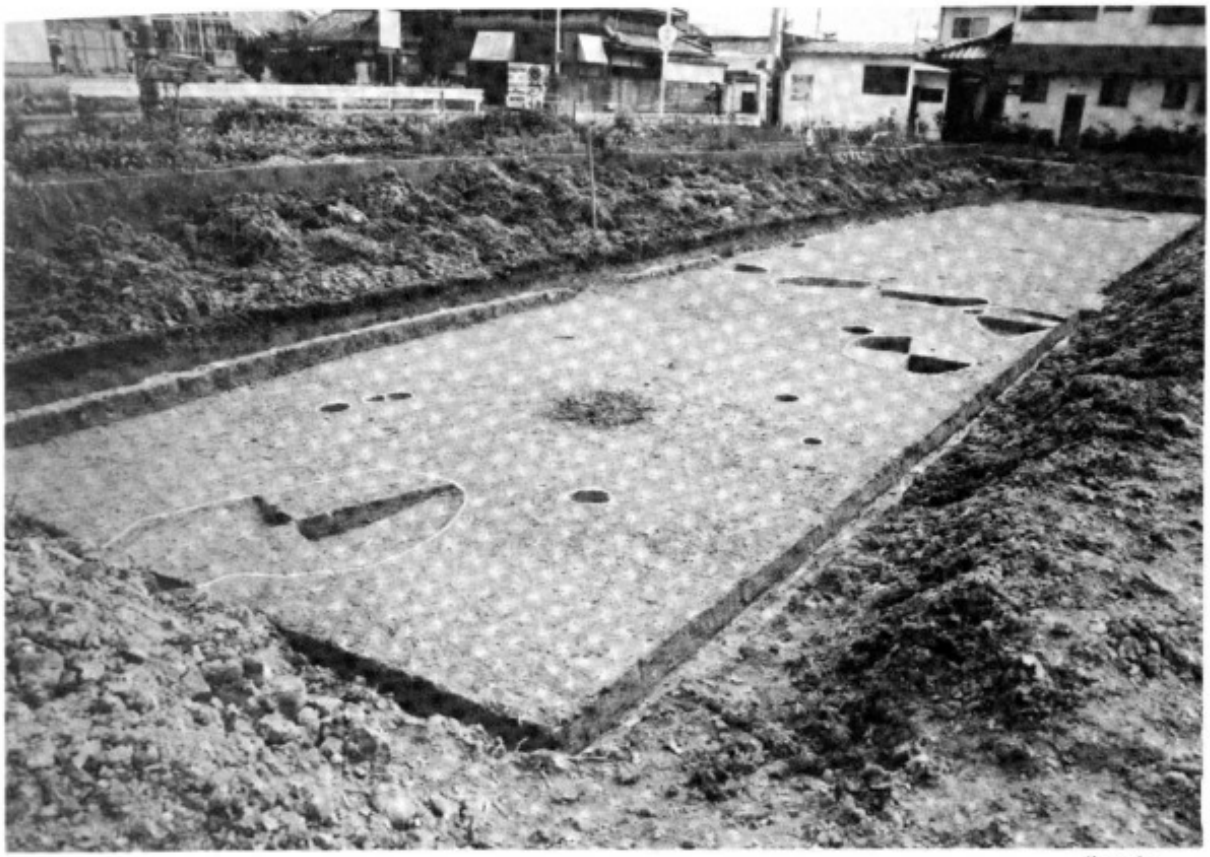
※町内の溜池はすべて周知の遺跡と同等の扱いとなります。

※水田は一部条里遺構を残しているので周知の遺跡と同等の扱いとなります。

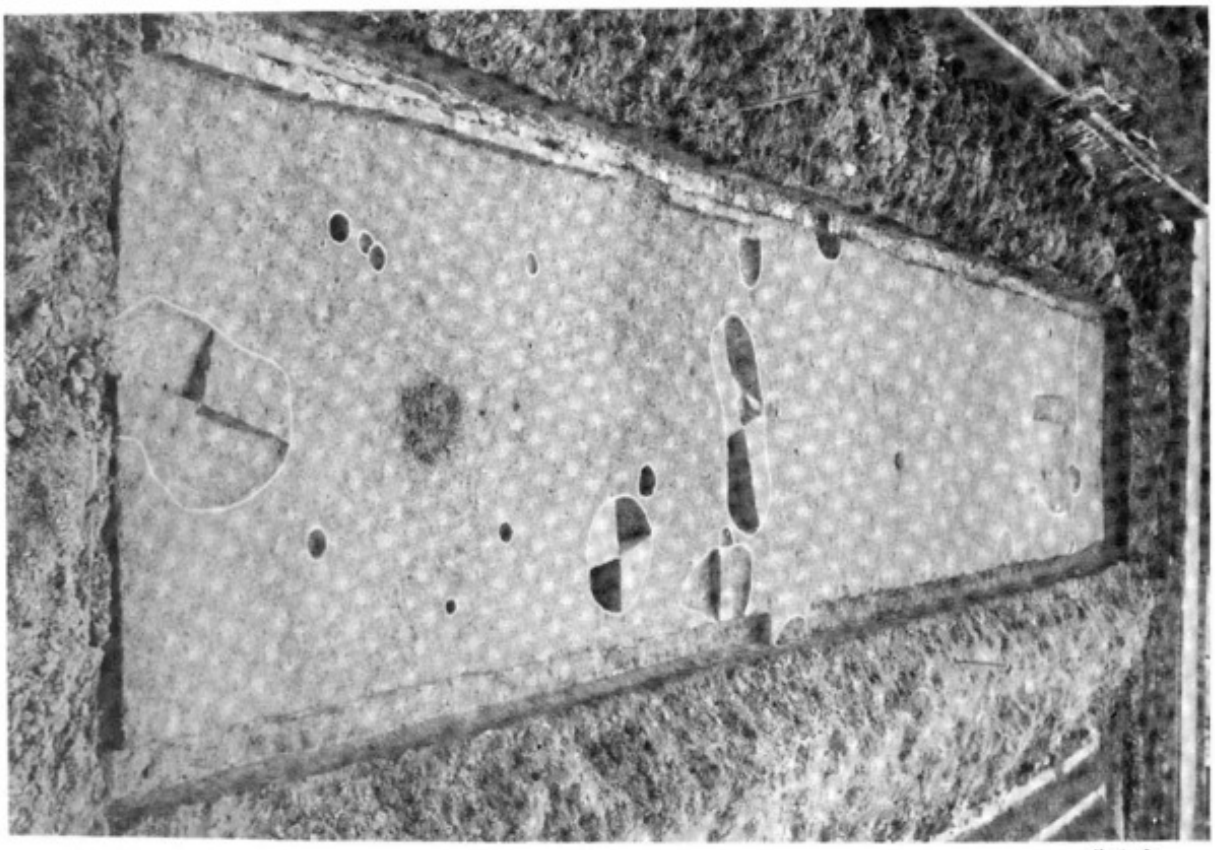
※旧街道も周知の遺跡と同等の扱いとなります。

図　　版

図版第一　東円寺跡88年7区全景

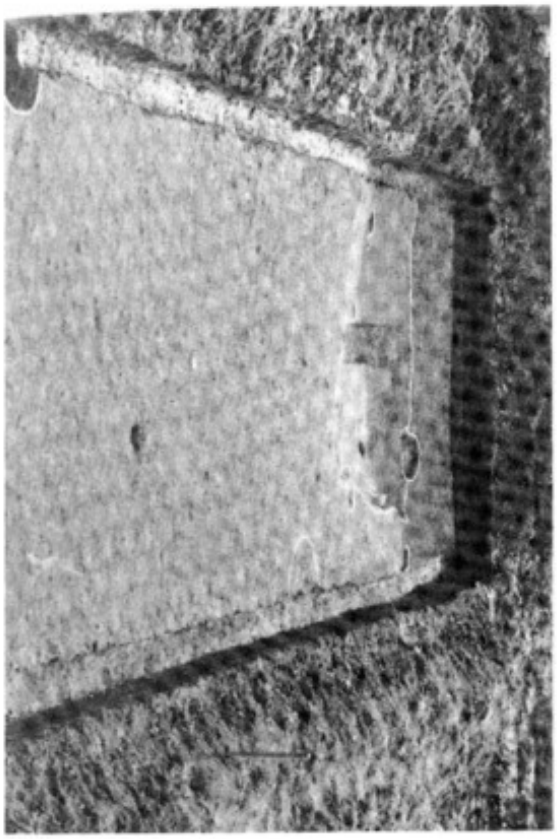


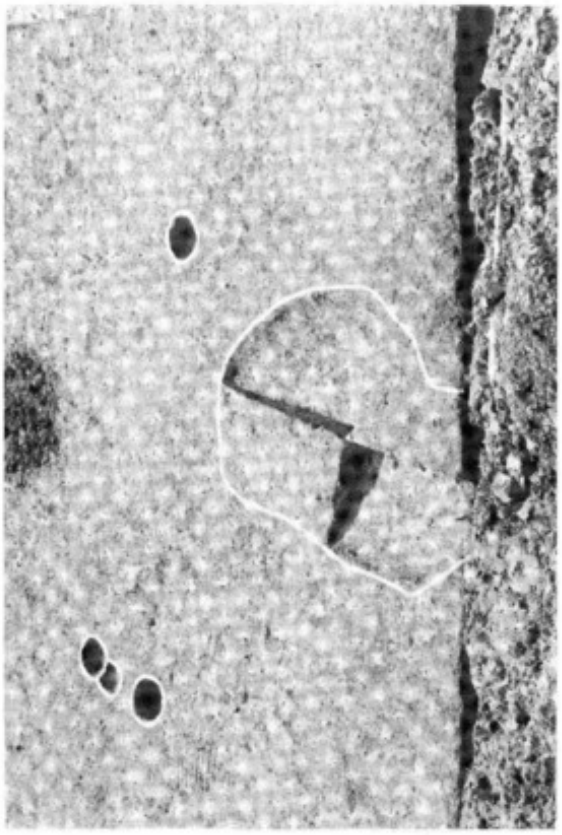
北から

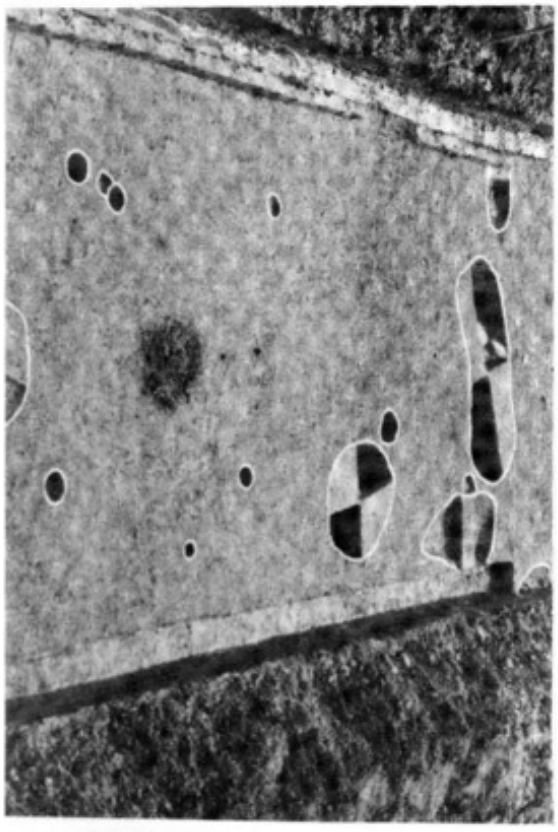


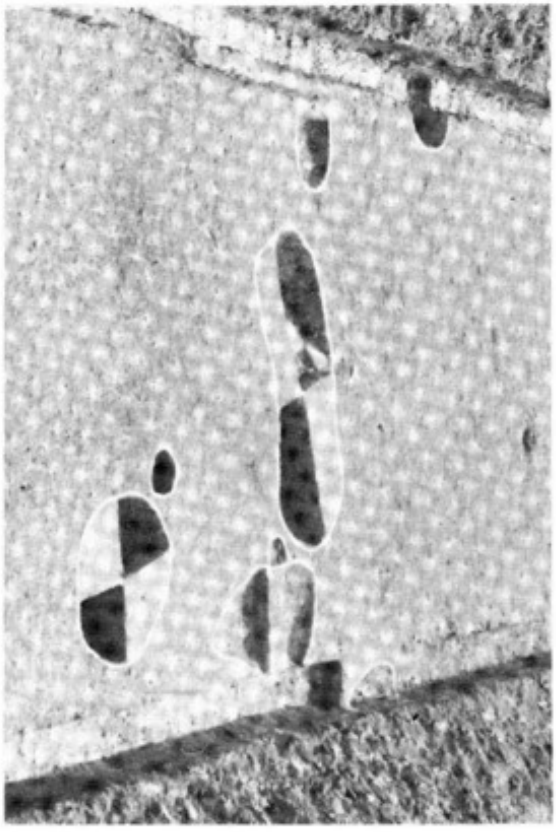
北から

図版第二　東円寺跡88年7区遺構検出状態

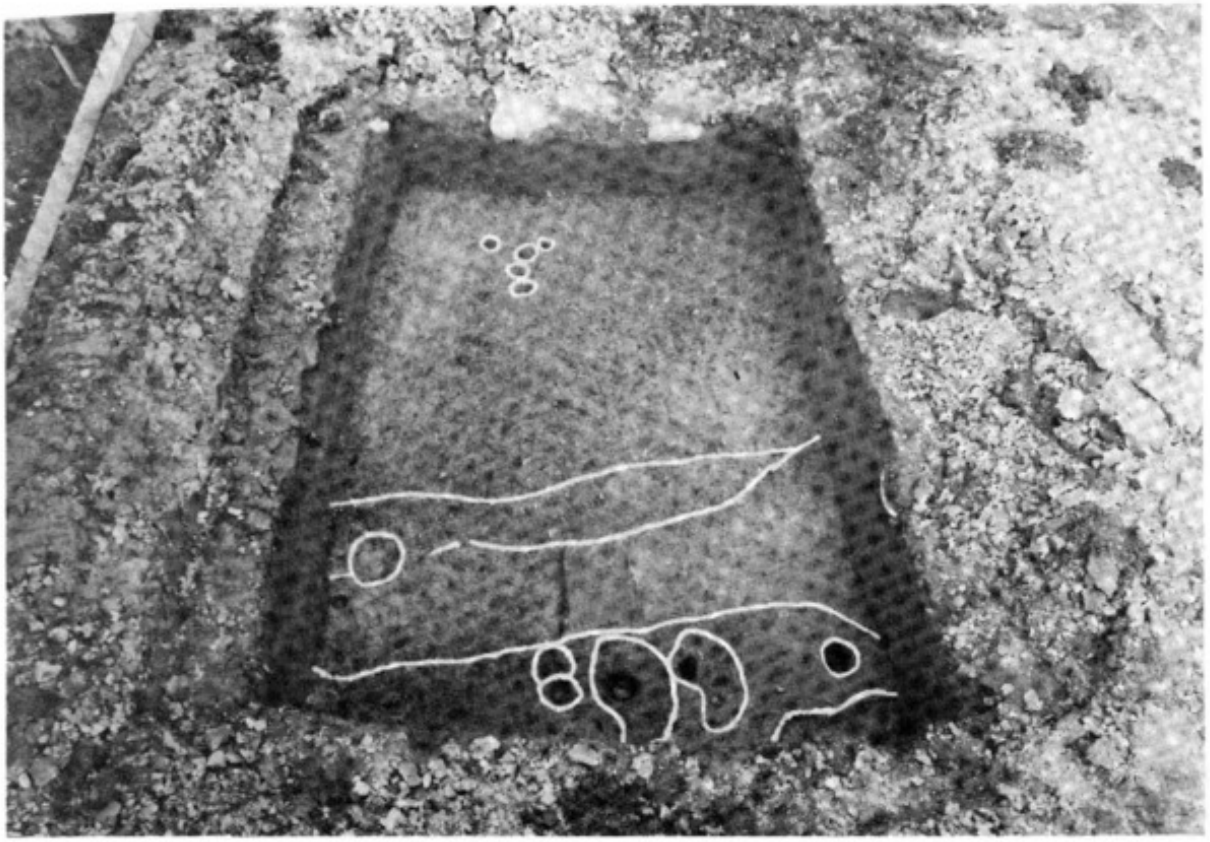




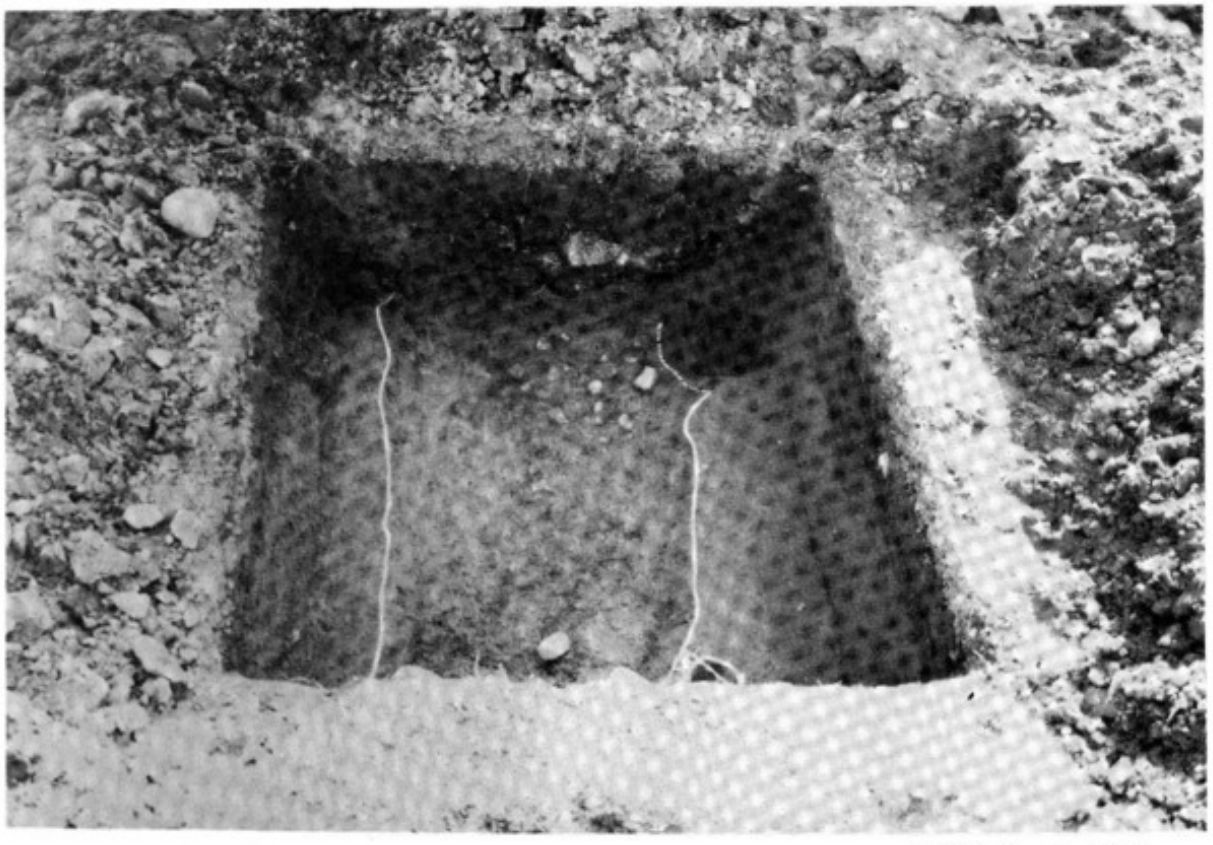




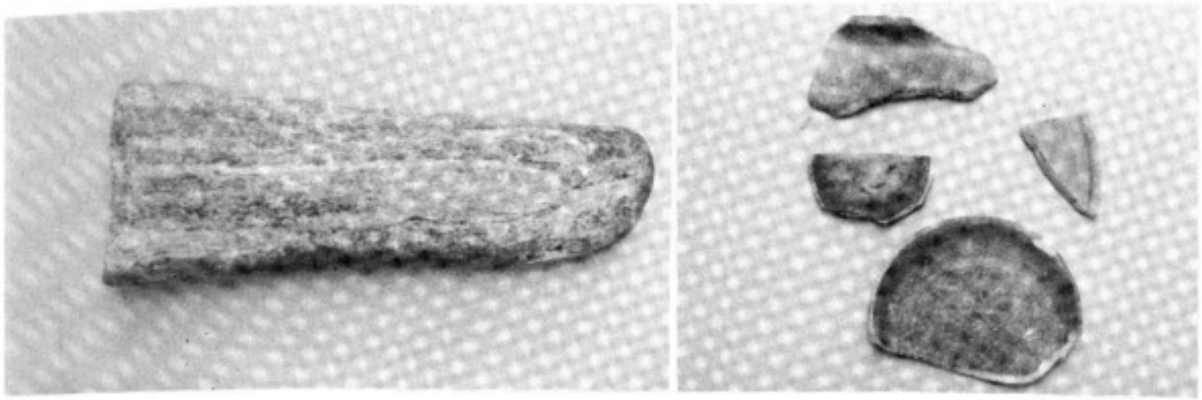
図版第三　東円寺跡88年8区遺構検出状態



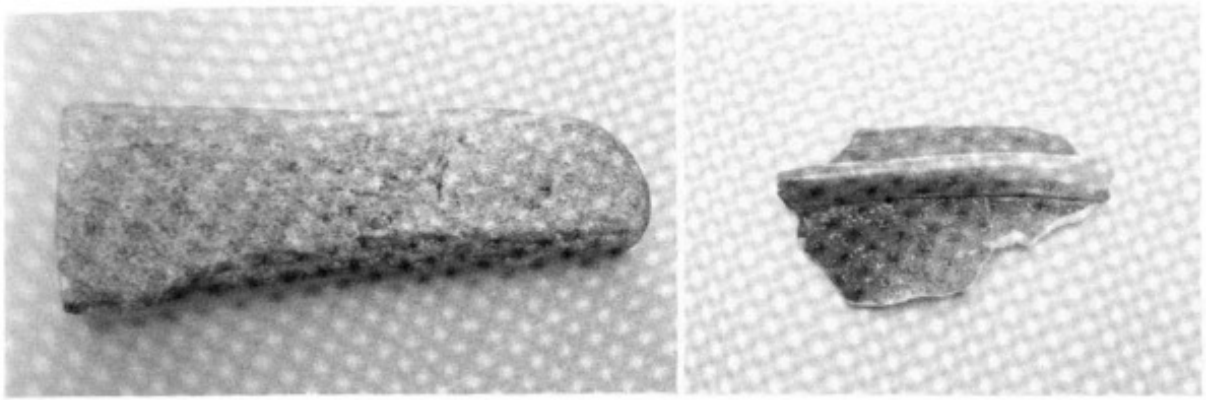
第1グリッド　南から



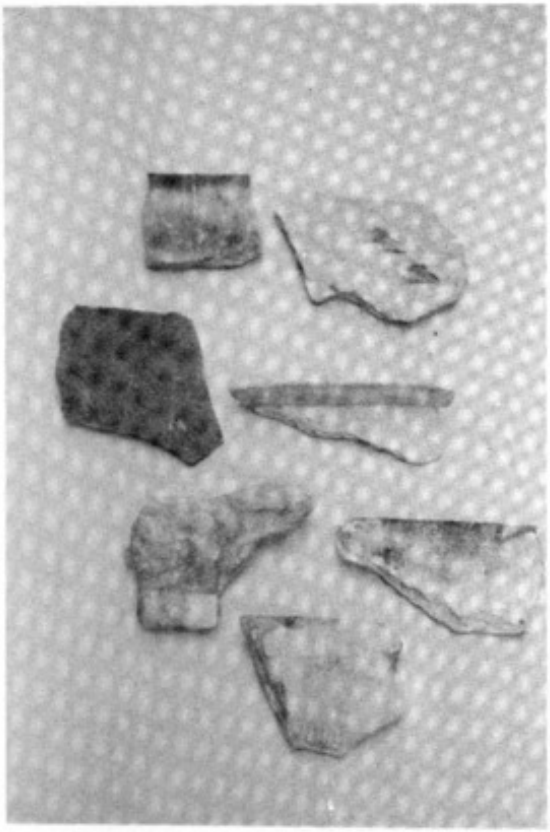
第2グリッド　北から



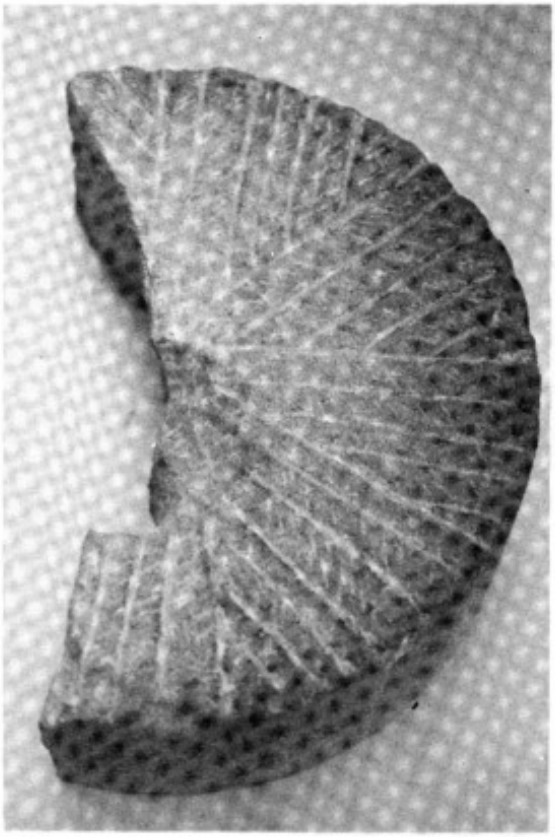
8区出土　遺物



9区出土　羽釜

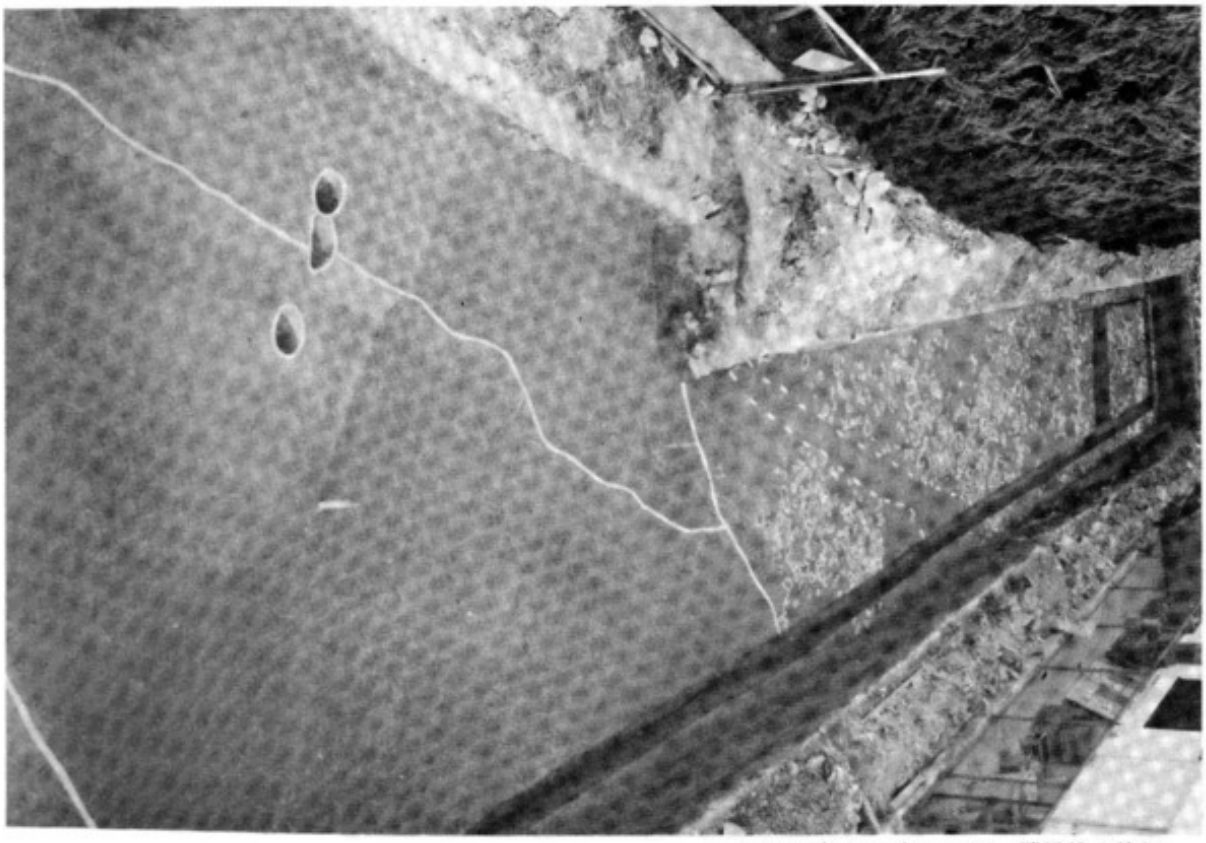


7区出土　遺物

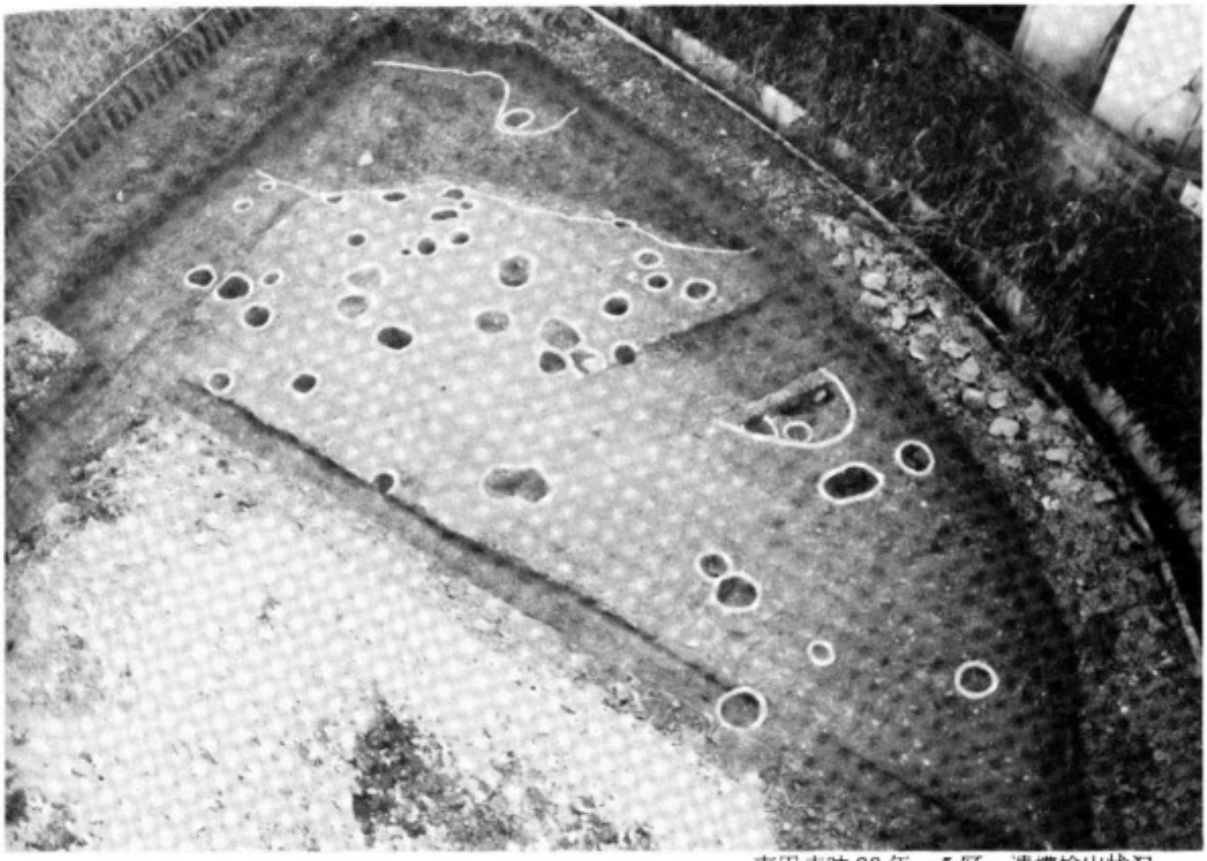


石　臼

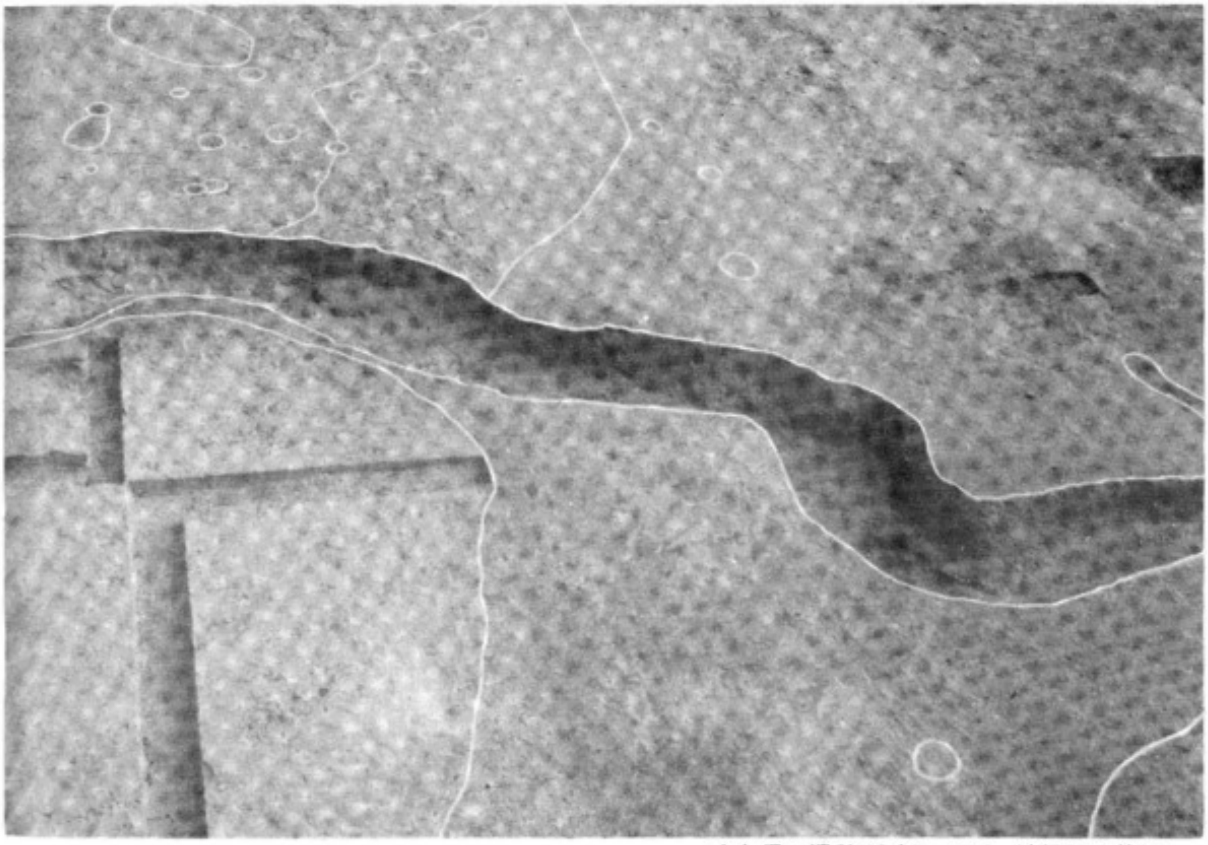
東円寺跡88年－4区　遺構検出状況



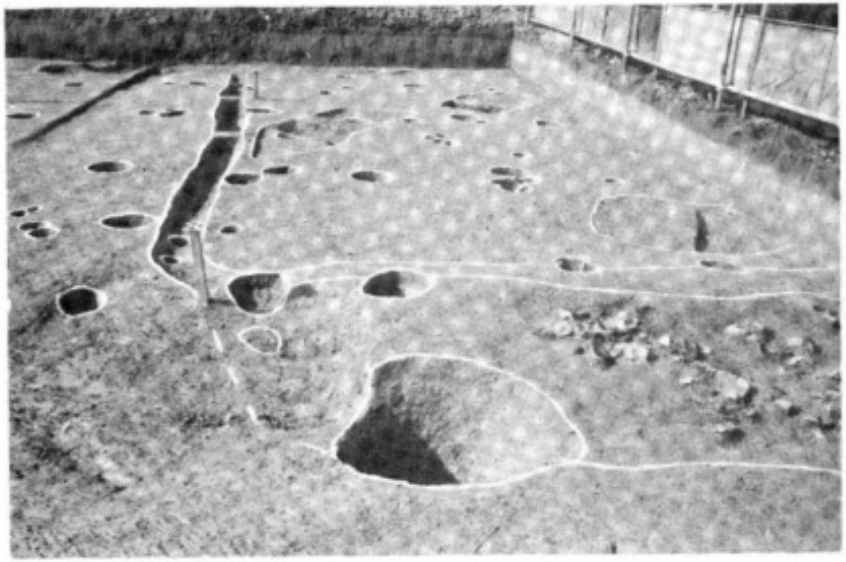
大久保B遺跡88年－1区　遺構検出状況



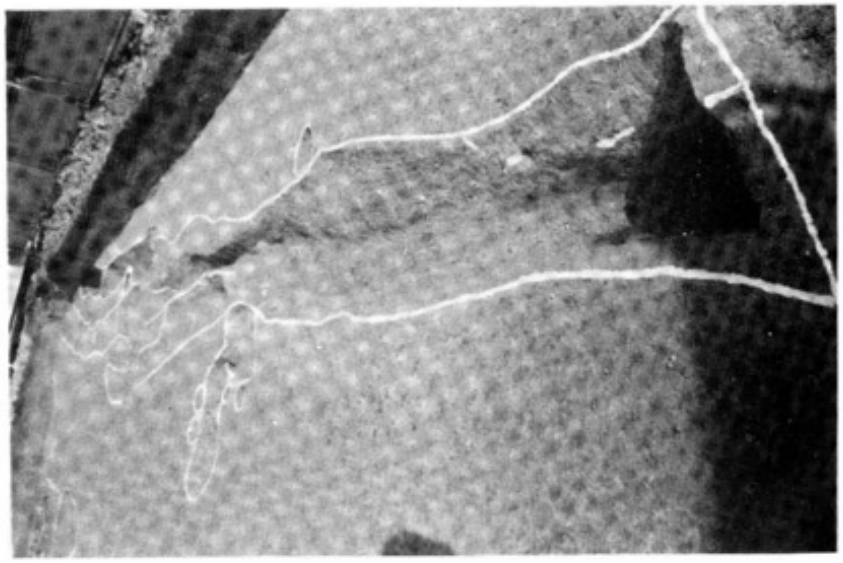
東円寺跡88年－5区　遺構検出状況



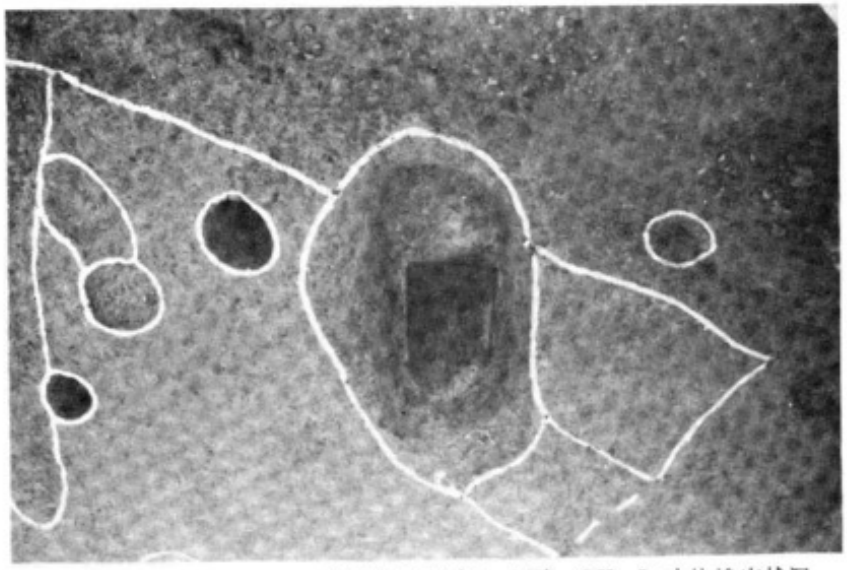
大久保D遺跡88年－1区　遺構検出状況



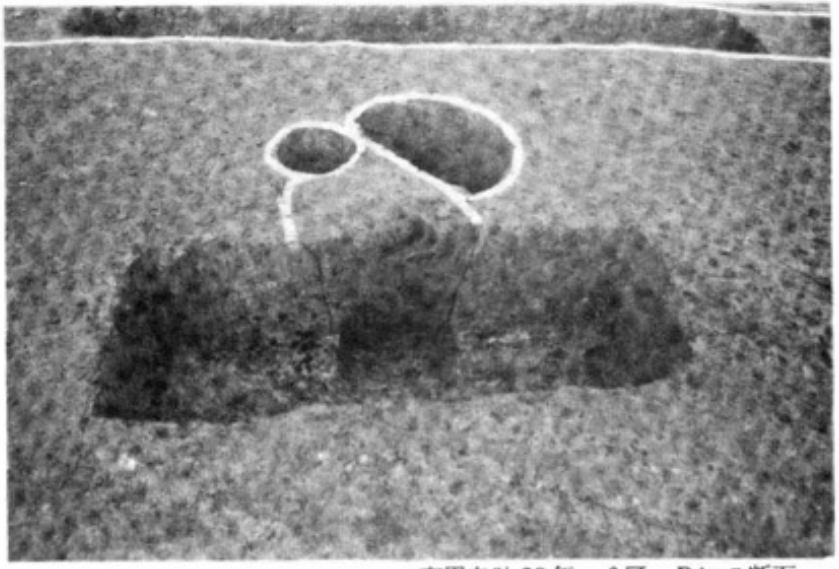
東円寺跡88年－6区　遺構検出状況（東から）



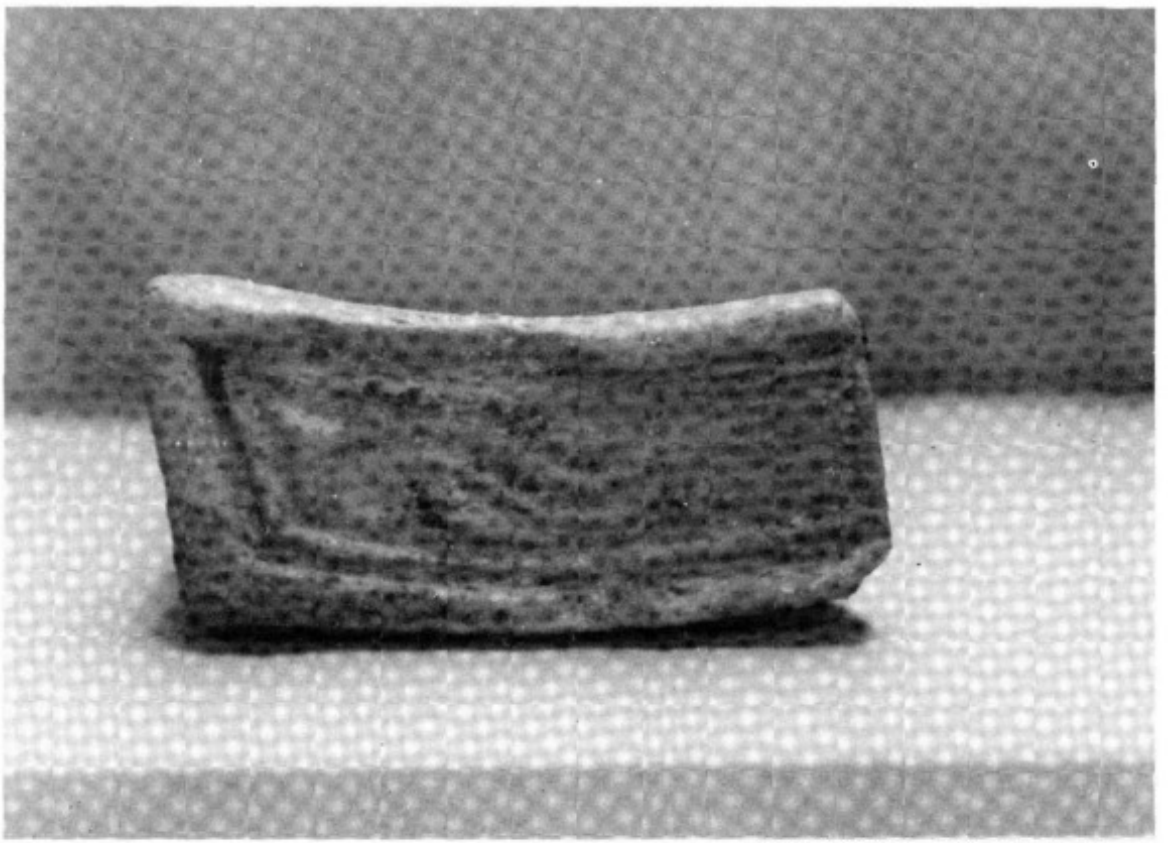
東円寺跡88年－6区　遺構検出状況（南から）



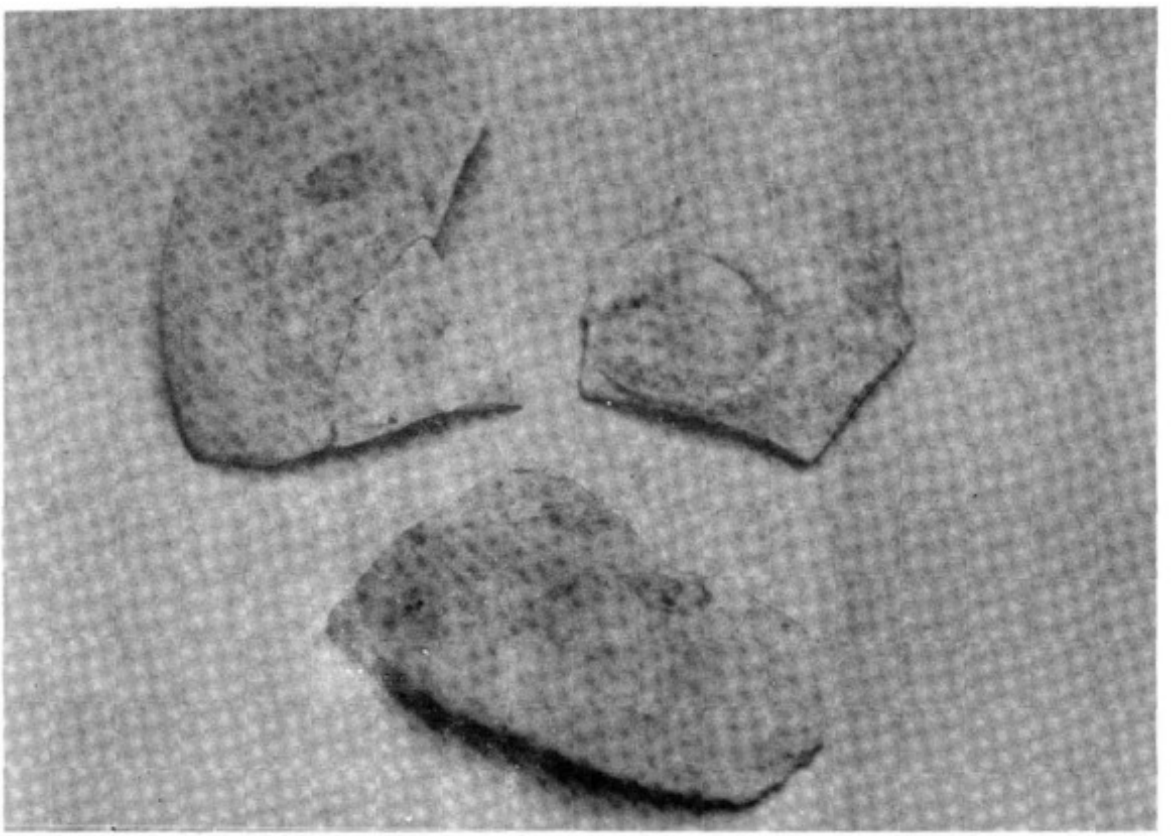
東円寺跡88年－6区　SK-2　木片検出状況



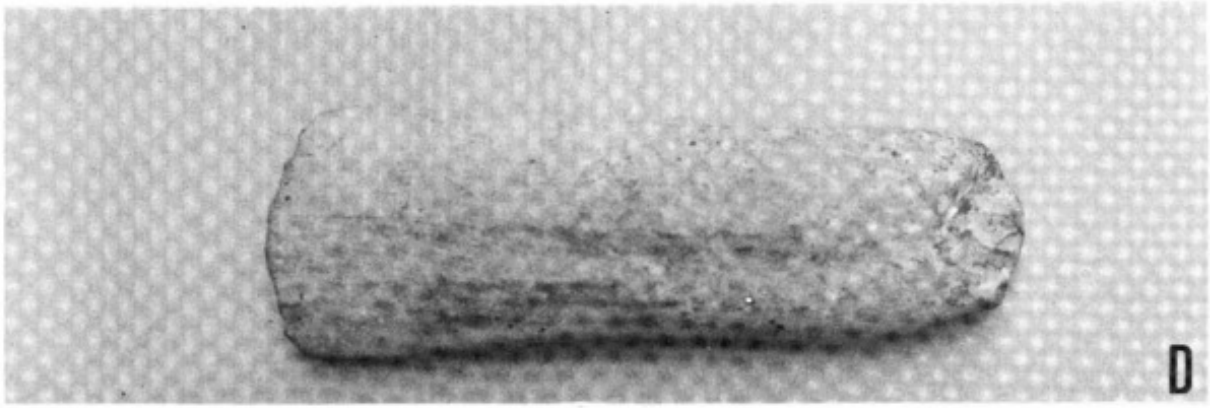
東円寺跡88年－6区　Pitの断面

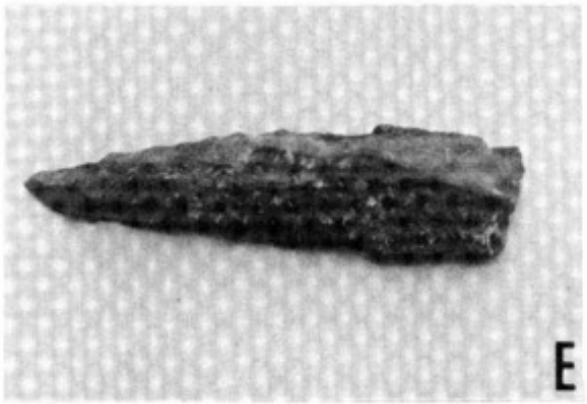


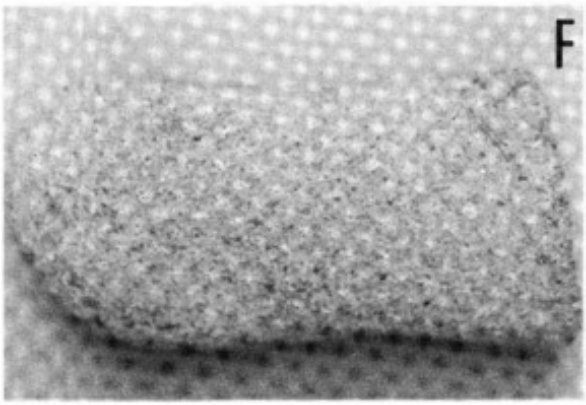
東円寺跡88年ー5区　出土瓦

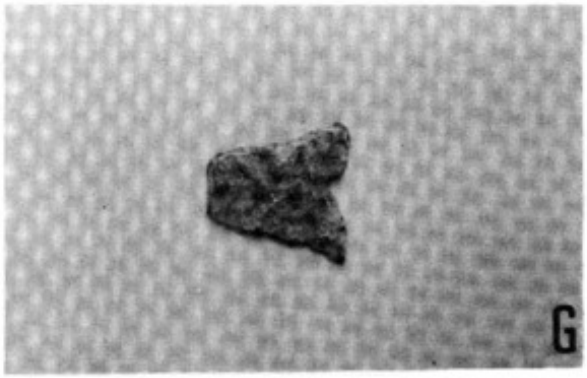


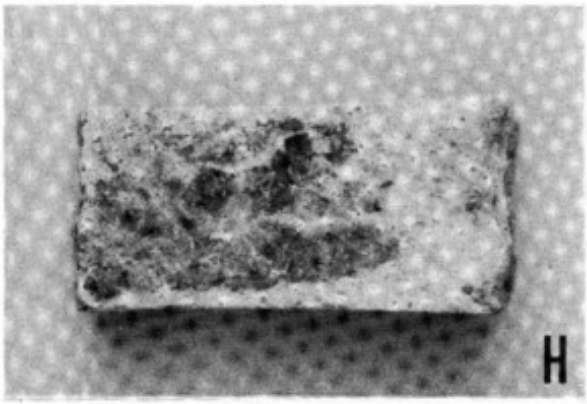
東円寺跡88年ー5区　出土遺物

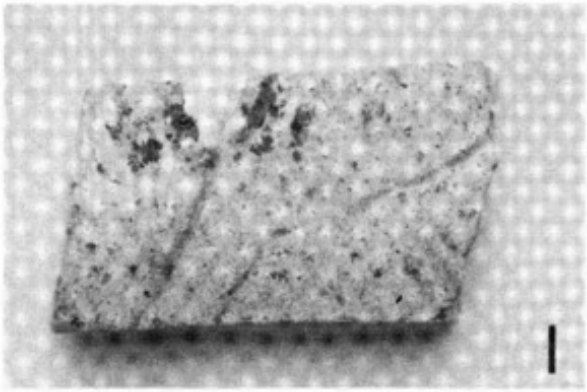




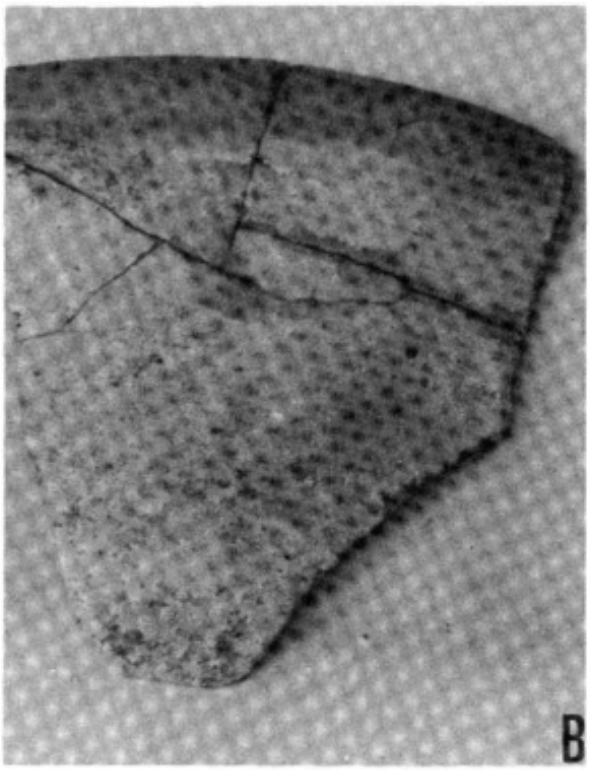
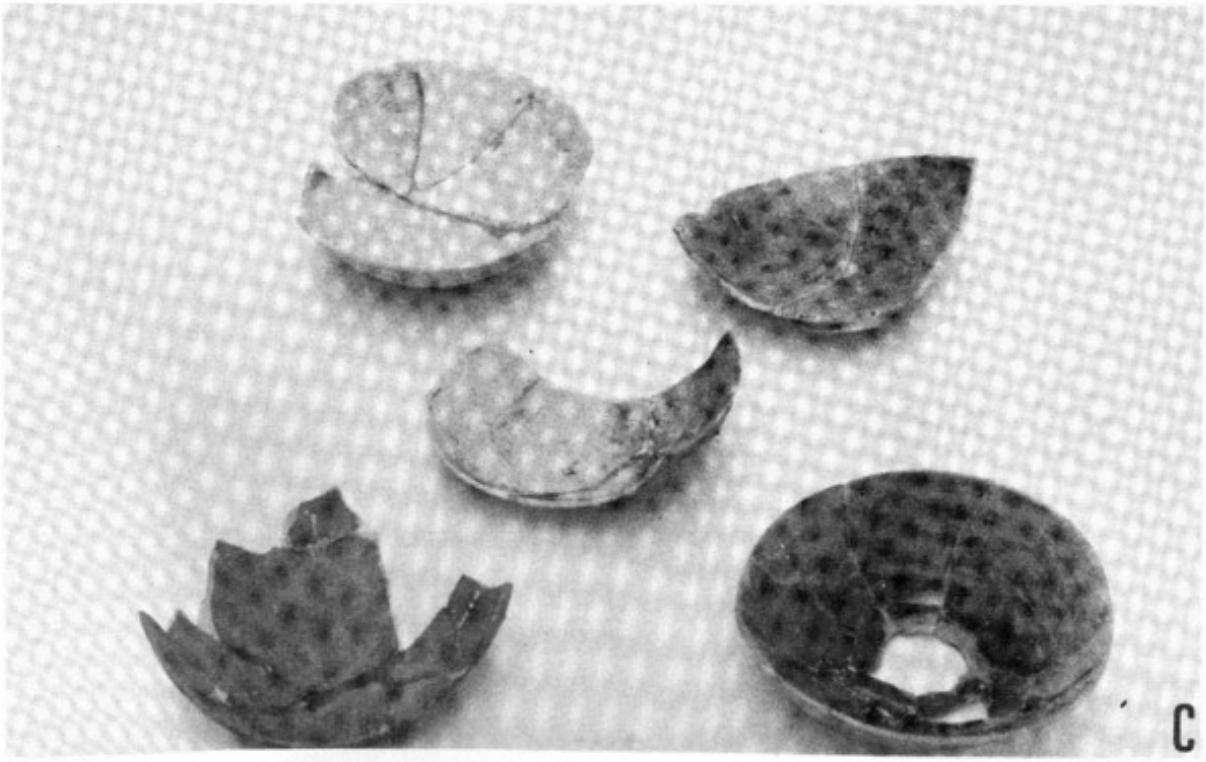








D：大久保D遺跡88年－1区　磨製石斧
E：　〃　石錐
F：東円寺跡88年－1区出土　石棒
G：大久保B遺跡88年－1区出土　石鏃
H：東円寺跡88年－1区出土　砥石
I：東円寺跡88年－5区出土　砥石



A：東円寺跡88年－1区出土　ふいご羽口
B：東円寺跡88年－5区出土　瓦質甕
C：東円寺跡88年－6区出土　瓦器椀